

# 令和4年度 県立病院を良くする会 次第

日 時 令和4年11月4日（金）  
午後4時00分から  
場 所 徳島県県庁他  
WEB会議

## 1 開 会

## 2 議 事

- (1) 「徳島県病院事業経営計画（第2期）」の令和3年度取組の評価等について
- (2) 「徳島県病院事業経営強化計画」の策定について
- (3) 意見交換

## 3 閉 会

### 【配付資料】

- 資料1 徳島県病院事業経営計画（第2期）の取組状況
- 資料2 徳島県病院事業経営計画（第2期）の取組状況の評価について
- 資料3 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の概要
- 資料4 「徳島県病院事業経営強化計画（素案）」の概要
- 資料5 「徳島県病院事業経営強化計画（素案）」

# 徳島県病院事業経営計画（第2期） の取組状況

令和4年11月4日  
県立病院を良くする会資料

## 1 「人材確保・働き方改革」に向けた取組

### (1) 医師の確保と指導医・専門医の養成 （資料2 p2）

#### ◆臨床研修指導医の養成

高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成し、次の世代の研修医を育てる**医師育成サイクル**を構築



主要指標	R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	備考
臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	96名	102名	120名	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央病院： 80名</li> <li>三好病院： 18名</li> <li>海部病院： 4名</li> </ul>

### (2) 臨床研修の充実 （資料2 p2）

#### ◆初期・後期臨床研修医の育成

海部病院内に「地域医療研究センター」を充実整備



主要指標	R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	備考
初期・後期臨床研修医数 【県立3病院全体】	52名	56名	60名	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央病院： 29名</li> <li>三好病院： 23名</li> <li>海部病院： 19名</li> </ul> (病院間の重複あり)

### (3)スペシャリストの養成 (資料2 p2)

#### ◆高度化・専門化する医療に対応した専門人材の養成

「専門・認定看護師」令和4年4月現在の資格取得者数

- ・専門看護師 **3名** (がん看護, 老人看護)
- ・認定看護師 **37名** (16分野)

\* 救急看護, 感染管理, 皮膚・排泄ケア, 緩和ケア, 集中ケア, 糖尿病看護, がん化学療法看護, がん性疼痛看護, がん放射線療法, 小児救急看護, 脳卒中リハビリテーション, 摂食・嚥下障害, 認知症看護, 手術看護, 慢性心不全看護, 精神科

主要指標	R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	備考
○専門・認定看護師数 【県立3病院全体】	37名	40名	40名	・中央病院: 22名 ・三好病院: 14名 ・海部病院: 4名
○看護師「特定行為研修」修了者数 【県立3病院全体】	1名	4名	10名	・中央病院: 3名 ・三好病院: 1名
○認定薬剤師数 【県立3病院全体】	9名	9名	15名	・中央病院: 6名 ・三好病院: 3名

3

### (4)医師・看護師等の「勤務環境」の改善 (資料2 p3)

#### ◆医師・看護師の負担軽減のため

「医師事務作業補助者(医療秘書)」や「看護助手」を充実

主要指標	R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	備考
医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】	52名	52名	55名	・中央病院: 33名 ・三好病院: 14名 ・海部病院: 5名

#### ◆院内保育所(中央病院 やまもも保育園)の運営

- ・定員**80名**(うち徳大病院枠10名)
- ・年中無休(夜間保育を実施)



4

## 2 「地域との連携」に向けた取組

### (1) 地域医療連携の充実

(資料2 p4)

#### ◆ 地域医療連携のさらなる充実に向けた新たな取組

令和3年8月「**徳島医療コンソーシアム推進協定**」に新たに2病院が参加

＜連携を図る公立・公的15病院＞

- ・ 徳島県立病院（中央病院・三好病院・海部病院）
- ・ 徳島大学病院
- ・ 徳島県鳴門病院
- ・ 三野病院
- ・ 上那賀病院
- ・ 美波病院
- ・ 海南病院
- ・ 半田病院
- ・ 徳島赤十字病院
- ・ 吉野川医療センター
- ・ 阿南医療センター
- ・ **徳島市民病院（R3参加）**
- ・ **勝浦病院（R3参加）**



5

#### ◆ 紹介・逆紹介による連携の推進

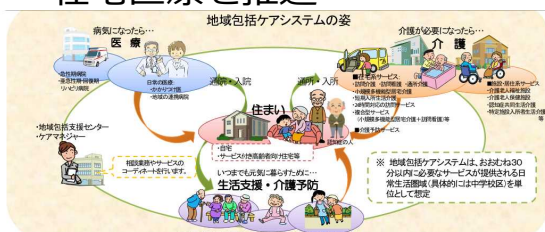
・ 着実に地域の医療機関との役割分担を推進

主要指標		R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値
紹介率	中央病院	95.6%	90.3%	93%
	三好病院	49.9%	63.9%	55%
	海部病院	18.7%	19.5%	30%
逆紹介率	中央病院	203.2%	211.1%	200%
	三好病院	83.2%	99.1%	100%
	海部病院	39.1%	48.8%	50%

### (4) 地域に不足する機能への取組の検討

#### ◆ 地域包括ケアシステムの構築 (資料2 p5)

・ 2025年における診療圏域の医療提供状況を見定めながら、在宅医療を推進



厚生労働省HPより

主要指標		R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値
リハビリテーション 単位数 (総数)	中央病院	43,784単位	55,352単位	48,000単位
	三好病院	22,177単位	29,966単位	24,000単位
	海部病院	27,930単位	26,226単位	30,000単位
訪問看護 件数	三好病院	0件	0件	100件
	海部病院	655件	904件	800件

6

### 3 「危機管理能力の向上」に向けた取組

#### (1)大規模災害への対応力の強化

(資料2 p6)

##### ◆令和3年度徳島県総合防災訓練

- ・中央病院が参加し、**令和3年9月1日実施**

##### ◆DMATの育成

主要指標	R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	備考
DMAT数 【県立3病院全体】	9チーム	9チーム	12チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央病院: 4チーム</li> <li>・三好病院: 2チーム</li> <li>・海部病院: 3チーム</li> </ul>

#### (2)感染症対策の充実

(資料2 p6)

##### ◆医療機器の整備

- ・新型コロナウイルス感染症患者の急速な増加にも対応できるよう、医療機器を整備
- ・人工呼吸器
- ・生体情報モニター など



人工呼吸器

7

#### (4)広域的な救急医療提供体制の整備

(資料2 p6)

- ◆「ドクターヘリ」の運行 平成24年10月～  
「助かる命を助ける」べく、  
「関西広域連合」管内をはじめ、県域を越えて運行
- ・令和3年度の出動件数

**501件 (R2:471件)**

- ◆「ホスピタルカー」の導入 平成29年10月～  
→「ドクターカー」の運行 令和2年11月～

- ・令和3年度実績

**116件 (施設間搬送69件, 現場出動47件)**



#### (5)救命救急医療の充実強化

(資料2 p7)

##### ◆中央病院ER棟の整備

- ・次の4つの機能を付加・統合したER棟を整備し本館棟と連携を図ることで、救急医療等の体制を充実強化

- ① 救命救急機能 **感染症外来をはじめ救急医療**を充実
- ② 災害対応機能 **「災害対策本部」**や**「DMAT活動拠点本部」**
- ③ 人材育成機能 **「スキルラボ」**による医療人材の育成
- ④ 地域医療支援機能 **「5Gネットワーク」**による遠隔医療



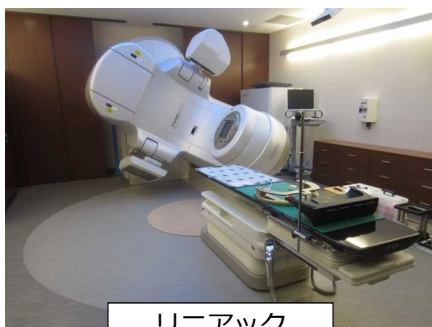
## 4 「医療の質の向上」に向けた取組

### (1) 高度先進医療・臨床研究の充実

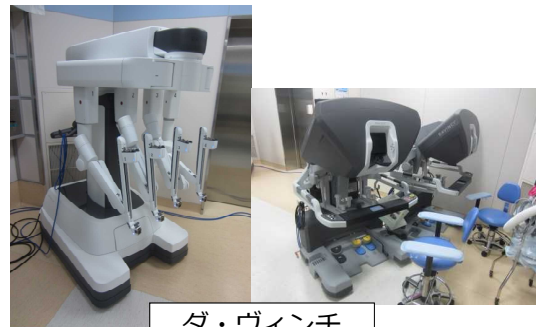
(資料2 p8)

#### ◆ 高度医療機器の整備による先進医療の提供

- ・ 中央病院では、リニアック (R3更新) や PET-CT、ダ・ヴィンチ (R2更新) による高精度な治療や検査を推進
- ・ 三好病院では、リニアック により、質の高い「がん治療」を推進
- ・ 海部病院では、マルチスライスCT を導入



リニアック



ダ・ヴィンチ

9

### (2) 医療器械等の共同購入の推進

(資料2 p8)

#### ◆ 各種医療器械，医薬品，医療材料等の共同購入・交渉

- ・ 令和3年度の県立三病院において268品目で共同購入

主要指標	R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値
医療材料の共同購入品目数 【県立3病院全体】	227品目	268品目	300品目

### (3) チーム医療の推進

(資料2 p8)

#### ◆ 高い専門性を有する「診療チーム」による的確な医療の提供

- ・ 求められる医療需要に、的確かつ迅速に対応するため、「糖尿病チーム」など多職種による、チーム医療を推進
- ・ 回復力・予防力の向上に貢献する薬剤管理指導を実施

主要指標		R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値
薬剤管理 指導件数	中央病院	16,633件	15,084件	17,000件
	三好病院	2,644件	2,844件	3,500件
	海部病院	1,045件	1,183件	1,800件

10

## (9)最新の情報通信機器を活用した遠隔医療の推進 (資料2 p10)

### ◆地域医療の課題解決に向け5Gの実装を推進

- ・令和3年7月27日に中央病院・海部病院間において  
**5Gによる糖尿病遠隔診療、内視鏡遠隔診断支援**を開始
- ・令和3年9月9日、12月16日に中央病院・三好病院間において  
**8K映像伝送によるローカル5Gの実証事業**を推進



内視鏡遠隔診断支援



糖尿病遠隔診療



8K映像伝送による  
ローカル5G実証事業

11

## 5 「経営の効率化」に向けた取組

### 〈収入確保の強化〉(1)急性期医療の重点化 (資料2 p11)

#### ◆入院患者数、在院日数の適正管理

- ・急性期医療の重点化を図るため、**適切な平均在院日数と病床利用率の管理**に取り組むとともに、**新規入院患者の受け入れ**を促進。

※R3については、**新型コロナの影響で各指標が悪化。**

主要指標		R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	説明
平均在院 日数	中央病院	9.8日	10.5日	9.6日	精神病床を除く
	三好病院	13.7日	14.1日	13.5日	緩和ケア病床を除く
	海部病院	11.3日	12.0日	12.0日	
1日平均 新規入院 患者数	中央病院	32.1名	24.5名	33.0名	精神病床を除く
	三好病院	9.2名	8.0名	10.5名	緩和ケア病床を除く
	海部病院	3.1名	4.2名	4.0名	
病床利用率 (一般病床)	中央病院	84.2%	69.3%	86.0%	
	三好病院	68.3%	55.2%	70.0%	
	海部病院	70.4%	43.3%	72.0%	

12

# 〈経費削減の強化と効率化の推進〉

(資料2 p12)

## (1)後発医薬品の採用

### ◆経費削減に向けた後発医薬品の採用

- ・調剤薬局における処方数量の増加に向け、  
外来処方における「一般名処方」を実施するなど、  
費用の削減とともに患者負担の軽減にもつなげる後発医薬品を積極的に採用

### ・令和3年度実績

**中央病院 90.2% 三好病院 92.0% 海部病院 95.8%**

主要指標		R1年度 (計画策定時)	R3年度 実績値	R7年度 目標値
後発医薬品採用数	中央病院	329品目	339品目	370品目
	三好病院	276品目	289品目	330品目
	海部病院	229品目	241品目	250品目
後発医薬品割合	中央病院	88.7%	90.2%	90.0%
	三好病院	89.7%	92.0%	90.0%
	海部病院	93.9%	95.8%	90.0%



## 徳島県病院事業経営計画(第2期)の取組状況の評価について

## 1 令和3年度の達成状況

施策数(再掲除く)	32 件	
達成 A	0 件	0.0%
順調 B	31 件	96.9%
努力 C	1 件	3.1%

## 自己評価基準

- ・【達成:A(取組目標を達成)】
- ・【順調:B(令和7年度に取組目標を達成できる状況)】
- ・【努力:C(令和7年度の目標達成には努力が必要)】
- ・【その他:-(再掲等)】

## 2 自己評価一覧

## 主要施策1「人材確保・働き方改革」に向けた取組

(1) 医師の確保と指導医・専門医の養成	B
(2) 臨床研修の充実	B
(3) スペシャリストの養成	B
(4) 医師, 看護師等の勤務環境の改善・充実	B
(5) ICT(情報通信技術)の活用	B

## 主要施策2「地域との連携」に向けた取組

(1) 地域医療連携の充実	B
(2) 住民に開かれた病院運営	B
(3) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	B
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	B

## 主要施策3「危機管理能力の向上」に向けた取組

(1) 大規模災害への対応力の強化	B
(2) 感染症対策の充実	B
(3) 院内感染対策の推進	B
(4) 広域的な救急医療支援体制の整備	B
(5) 救命救急医療の充実強化	B
(6) 医療安全対策の推進	B

## 主要施策4「医療の質の向上」に向けた取組

(1) 高度先進医療・臨床研究の充実	B
(2) 医療器械等の共同購入の推進	B
(3) チーム医療の推進	B
(4) 病院機能評価の継続受審	B
(5) 患者・職員の満足度の向上	B
(6) 患者からの信頼を得る医療の推進	B
(7) 広報活動の充実	B
(8) 快適な病院利用環境の整備	B
(9) 最新の情報通信機器を活用した遠隔医療の推進	B

## 主要施策5「経営の効率化」に向けた取組

〈一般会計負担の考え方〉	
〈収入確保の強化〉	
(1) 急性期医療の重点化	C
(2) DPC分析による経営戦略の策定	B
(3) 診療報酬制度への戦略的な取組	B
(4) 未収金の発生防止と回収促進	B
(5) 医師の確保と育成 (再掲)	—
〈経費削減の強化と効率化の推進〉	
(1) 後発医薬品の採用	B
(2) 医療器械等の共同購入の推進 (再掲)	—
(3) 効率的な委託契約の推進	B
(4) 事務部門のスリム化と強化	B
(5) 病院資産の有効活用	B

## 主要施策1 「人材確保・働き方改革」に向けた取組

### 取組の方向性

職員の資質向上や勤務環境の改善・充実に努め、魅力的な職場づくりによる人材確保を推進するとともに、専門性の高い職員の採用や育成、業務の効率化等により、働き方改革を推進します。

主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	<自己評価> A 達成 B 順調 C 努力 ー その他																														
(1) 医師の確保と指導医・専門医の養成	<p>総合メディカルゾーン本部を核とし、県立病院間での医師のローテーション勤務を一層推進し、効果的な人材活用と育成を図ります。また、地域枠医師を積極的に受け入れ、県立3病院の診療機能の特性を生かしながら臨床力を養成し、県立3病院全体でキャリア形成支援に取り組みます。</p> <p>また、今後、中央診療部門医師（麻酔科医・放射線科医・病理医）の不足が予測されることから、長期的な視野で確保・育成に取り組みます。</p> <p>さらには、徳島大学病院や県医師会等との連携・協力により、平成30年4月から始まった専門医制度の下で、高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を養成するなど、優れた医師の育成・医療の質の向上を推進するとともに、次の世代の研修医を育てる医師育成サイクルを構築します。</p> <p>これから医師を目指す方に県立病院の魅力や特色を情報発信するため、ホームページの充実を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修指導医数（中央病院80名、三好病院18名、海部病院4名）</li> <li>「中央診療部門」の医師養成として、平成29年4月から、徳島大学・寄附講座「麻酔科診療部」を新設した。（中央病院・全身麻酔手術（R3年度）2,623件）</li> <li>中央病院と海部病院間において、5G技術を利用した遠隔診療を開始し、専門医による診療機会の増加に努めている。（糖尿病・形成外科）</li> </ul>	B																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (R1年度)</th> <th>R3年度 実績値</th> <th>R7年度 目標値</th> <th>進捗率 (達成率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】</td> <td>99名</td> <td>102名</td> <td>120名</td> <td>14.3%</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)	○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	99名	102名	120名	14.3%																						
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)																												
○臨床研修指導医数 【県立3病院全体】	99名	102名	120名	14.3%																													
(2) 臨床研修の充実	<p>中央病院では、総合メディカルゾーン本部としての位置づけを踏まえ、志と臨床力の高い医師を輩出する実践教育病院として、三好病院においては、「にし阿波3病院後期臨床研修プログラム」、海部病院においては、「南阿波総合診療専門研修プログラム」により、各地域を支える医療拠点として、関係医療機関と連携した特色ある研修指導を行います。また、徳島県鳴門病院と連携し、研修医の受入・養成環境を充実します。</p> <p>また、海部病院の高台移転に併せて整備した「地域医療研究センター」の宿泊機能や研修支援機能等を活用し、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生の環境改善を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研修病院として、臨床研修医を56名受け入れて、臨床研修の充実を図った。</li> <li>平成30年4月開始の「新専門医制度（19診療科）」への対応状況 「新専門医プログラム」 中央病院：17診療科（基幹施設・連携施設） 三好病院：13診療科（連携施設・協力施設） 海部病院：5診療科（基幹施設・連携施設）</li> <li>海部病院は、診療や研修に従事する医師や実習を行う医学生等の環境改善を図るため、宿泊機能や研修支援機能等を備えた「地域医療研究センター」の整備を行った。（徳島大学医学部生の学外臨床実習の場として、医学部5年生が実習を実施。R3年度：3名）</li> </ul>	B																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (R1年度)</th> <th>R3年度 実績値</th> <th>R7年度 目標値</th> <th>進捗率 (達成率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○初期臨床研修・専攻医数 【県立3病院全体】</td> <td>52名</td> <td>56名</td> <td>60名</td> <td>50.0%</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)	○初期臨床研修・専攻医数 【県立3病院全体】	52名	56名	60名	50.0%																						
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)																												
○初期臨床研修・専攻医数 【県立3病院全体】	52名	56名	60名	50.0%																													
(3) スペシャリストの養成	<p>高度化・専門化する医療に対応するため、各県立病院がそれぞれの担うべき機能に応じた研修の方針・計画を策定し、職員の資質向上を図ります。</p> <p>県立病院の医師を、大学や教育研究機関、高度先進医療機関、国際学会等に派遣し、特に高度な専門的知識及び技能を修得させ、職員の資質向上と組織内の知識技能の共有に努めます。</p> <p>また、看護師や薬剤師などの各職種での資格取得、知識・技能の習得及びその共有に努めます。</p> <p>さらには、県内における大学看護学科、看護学校からの実習生の受入れを通じ、県内全体の看護職確保や質の向上に資するとともに、受入れ体制として、さらに細やかな対応ができるよう看護学生実習指導者等の育成に努めます。</p> <p>薬剤師については、将来を担う薬剤師の育成を目的とし、薬学部からの実習生を受け入れ、育成に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍において、webを活用することにより、学会・研修会等に医療職員が参加するとともに、学会、研修会に参加した職員等による院内報告会・研修会を通じて、知識・技術の共有を図り、医療現場の質の向上に努めた。</li> <li>専門看護師育成（資格取得者数：3名）</li> <li>認定看護師育成（資格取得者数：37名）</li> </ul>	B																														
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (R1年度)</th> <th>R3年度 実績値</th> <th>R7年度 目標値</th> <th>進捗率 (達成率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○高度医療研修医師派遣者数 【県立3病院全体】</td> <td>24名</td> <td>24名</td> <td>30名</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>○専門・認定看護師数 【県立3病院全体】</td> <td>37名</td> <td>40名</td> <td>40名</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>○看護学生実習指導者数 (看護協会実習指導者講習会修了者数) 【県立3病院全体】</td> <td>27名</td> <td>38名</td> <td>34名</td> <td>157.1%</td> </tr> <tr> <td>○看護師「特定行為研修」修了者数 【県立3病院全体】</td> <td>1名</td> <td>4名</td> <td>10名</td> <td>33.3%</td> </tr> <tr> <td>○認定薬剤師数 【県立3病院全体】</td> <td>9名</td> <td>9名</td> <td>15名</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)	○高度医療研修医師派遣者数 【県立3病院全体】	24名	24名	30名	0.0%	○専門・認定看護師数 【県立3病院全体】	37名	40名	40名	100.0%	○看護学生実習指導者数 (看護協会実習指導者講習会修了者数) 【県立3病院全体】	27名	38名	34名	157.1%	○看護師「特定行為研修」修了者数 【県立3病院全体】	1名	4名	10名	33.3%	○認定薬剤師数 【県立3病院全体】	9名	9名	15名	0.0%		
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)																												
	○高度医療研修医師派遣者数 【県立3病院全体】	24名	24名	30名	0.0%																												
	○専門・認定看護師数 【県立3病院全体】	37名	40名	40名	100.0%																												
	○看護学生実習指導者数 (看護協会実習指導者講習会修了者数) 【県立3病院全体】	27名	38名	34名	157.1%																												
○看護師「特定行為研修」修了者数 【県立3病院全体】	1名	4名	10名	33.3%																													
○認定薬剤師数 【県立3病院全体】	9名	9名	15名	0.0%																													

主要施策項目	施策の概要					令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 - その他
(4) 医師、看護師等の勤務環境の改善・充実	<p>県民への医療サービスの向上につながる医師、看護師等の業務の負担軽減を図るため、引き続き医師事務作業補助者や看護助手等の効果的な配置を進めます。</p> <p>また、令和6年4月から適用される医師の時間外労働規制に対応するため、医師の労働時間の短縮策等に取り組み、労働時間の適正化に努めます。</p> <p>さらには、中央病院で院内保育所を運営し、職員が出産や育児といった多様なライフステージに対応して業務を続けていくことができる職場環境の醸成を図ります。</p> <p>また、職員の勤務関係の処理など総務事務の電子決裁化により事務処理の省力化に努めます。</p>					<p>・県民への医療サービスの向上につながる医師等の業務の負担軽減を図るため、事務補助者（医師事務作業補助者等）52名について、効果的な配置を行った。（中央病院33名、三好病院14名、海部病院5名）</p> <p>・中央病院の院内保育所（定員80名（内徳大10名））は、原則年中無休で運営しており、病児保育への対応や夜間保育、半日保育、臨時保育も実施している。</p> <p>・看護師等において育児等復帰後は超過勤務や夜勤等勤務上の配慮により、子育てと仕事が両立できる職場環境の整備を行うとともに、業務負担軽減のため看護補助者を配置した。</p>	B
主要指標		計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)		
○医師事務作業補助者数 【県立3病院全体】		52名	52名	55名	0.0%		
(5) ICT（情報通信技術）の活用	<p>県立3病院の電子カルテシステムを中心とした医療情報システムの統一化による成果を踏まえ、遠隔画像診断を進めるとともに、ICTの進展や医療環境の変化に対応して適宜システムの見直しを図ります。</p>					<p>・海部病院に5G遠隔診療室を開設するとともに、中央病院と海部病院間において、糖尿病遠隔診療及び内視鏡遠隔診断支援を開始した。</p> <p>・中央病院・三好病院間において、8K腹腔鏡の映像伝送による実証事業を実施するとともに、皮膚科遠隔診療支援の開始に向け、実証実験を行った。</p> <p>・オンライン資格確認システムを稼働したことにより、マイナンバーカードの保険証利用が可能になったほか、保険確認の効率化が図れた。</p> <p>・県内医療機関へのサイバー攻撃を踏まえ、セキュリティ対策の強化に着手した。</p>	B

## 主要施策 2 「地域との連携」に向けた取組

### 取組の方向性

県立3病院において、地域の医療機関と適切な役割分担と連携を図るとともに、地域に不足する医療サービスの提供や県立病院が有する専門的知識・技術による関係機関への支援の充実により、地域医療構想の実現と質の高い地域医療提供体制の構築に向けて取り組みます。

主要施策項目	施策の概要					令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 - その他	
(1) 地域医療連携の充実	<p>「徳島医療コンソーシアム推進協定」に基づき、公立・公的13医療機関の連携・協働により、「地域医療の充実」、「医療の質の向上」、「医療提供体制の発展」及び「医療従事者の確保」に向けた情報共有と検討を推進します。</p> <p>県立3病院は、地域の医療機関と適切な役割分担と連携を図り、「地域連携クリティカルパス（地域連携診療計画表）」の積極的な運用により、地域医療全体の最適化に向けた効率的な取組を実施するほか、県立3病院の地域医療連携部門相互の連携強化を図ります。</p> <p>また、医療、看護、介護、福祉との連携を深め、かかりつけ医に協力をいただきながら、相談体制の充実等、住み慣れた地域で安心して療養生活が送れるよう支援します。</p> <p>地域で子どもを産み、育てやすい環境づくりを進めるため、他の医療機関との連携協力を努めます。</p> <p>さらに、三好病院及び海部病院においては、地域における在宅医療の充足状況や自宅での看取りに対するニーズを把握し、住民の在宅での療養生活や看取りが可能となるよう、かかりつけ医との連携はもとより、自らも訪問診療、訪問看護等の在宅医療を推進します。</p>					<p>・連携医として、中央病院516名、三好病院35名、海部病院19名を登録し、地域医療連携を進めた。</p> <p>・中央病院の患者支援センターでは、院内外の多職種（医師・ケアマネ・看護師・MSW・薬剤師・栄養士等）と連携し、入院前から退院まで一貫した患者支援を行っている。 （紹介患者件数：15,362件）</p> <p>・三好病院では、地域中核病院機能の取組として、つるぎ町立半田病院・三好市立三野病院と3病院間で医師の派遣等の協力体制を実施し、地域医療支援病院として、地域の医療機関等の連携に努めた。 （紹介患者件数：3,077件）</p> <p>・海部病院では、利用者のニーズ把握と地域の医療機関、施設等との連携強化を図るとともに、紹介患者や退院患者への「訪問診療」（324件）や「訪問看護」（904件）などの在宅支援を行なうとともに、在院日数の短縮に繋げてきた。また、「海部・那賀モデル」を核とした地域の医療従事者向けの研修会を開催した。 （紹介患者件数：1,881件）</p>		B
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)			
	○紹介率 【中央病院】	95.6%	90.3%	93%	-			
	【三好病院】	49.9%	63.9%	55%	274.5%			
	【海部病院】	18.7%	19.5%	30%	7.1%			
○逆紹介率 【中央病院】	203.2%	211.1%	200%	-				
【三好病院】	83.2%	99.1%	100%	94.6%				
【海部病院】	39.1%	48.8%	50%	89.0%				
(2) 住民に開かれた病院運営	<p>「開かれた病院」として、地域の住民が病院運営に参加いただける機会を設け、各病院の現状を明らかにするとともに、地域医療を共に考え、共に支えていただけるような関係づくりに努めます。</p> <p>また、各病院の機能や特性に応じた疾病・療養に関する公開講座の開催や、病院でのボランティア等地域住民との協働に取り組みます。</p>					<p>・中央病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により、県民公開講座等の開催を見送り、病院ボランティアの活動（ホール案内・車いす利用者の介助等）も控えることとした。また、オープンホスピタル（県内高校生対象）の開催も見送ることとした。</p> <p>・三好病院では、例年、県民公開講座、三好病院出前講座や「生き生き講座」を行っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受け、大きく縮小した形での実施となった。</p> <p>また、病院ボランティアによる屋上庭園の手入れや季節の飾り、病棟でのイベント等を実施しているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響を受け、令和3年度はボランティアの受入を見送った。</p> <p>・海部病院では、県内大学看護学科の見学研修（Web）、公開研修を開催した。新型コロナウイルス感染症の影響により、院内でのイベントや中高生の実習の受入を見送った。</p>		B

主要施策項目	施策の概要					令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 - その他
(3) 地域医療機関・介護施設等に対する支援の充実	<p>県立3病院がこれまで培ってきた感染症対策や様々なケアについての専門的知識を、医療スタッフが積極的に地域の関係機関に向けて情報発信し、各地域における医療課題の解決に向けた支援に取り組みます。</p>					<p>・県立3病院とともに、県から「へき地医療拠点病院」として指定を受け、へき地診療所や医師の確保が困難な医療機関に対し、医師派遣による診療支援を行った。(R3年度派遣実績、中央病院901回、三好病院145回、海部病院251回、3病院合計1,181回)</p> <p>・感染症対策については、ICD・ICNといった感染対策の専門スタッフにより構成される感染制御チームが中心となり、地域医療機関と合同で、院内感染対策にかかるカンファレンスを実施している。また、地域医療機関・介護関係者へ感染管理認定看護師が実地訓練を含む研修会等を実施するとともに、地域医療機関の間で相互に訪問を行い、院内感染対策に関する評価を行うなど、地域全体での感染対策のボトムアップを図った。</p>	B
(4) 地域に不足する機能への取組の検討	<p>県立3病院では、適切なリハビリテーションの提供等により、患者の在宅復帰支援を図ることはもとより、三好病院と海部病院において、2025年（令和7年）における診療圏域の医療提供状況を見定めながら、在宅医療（訪問診療・訪問看護・訪問リハ）への取組を推進します。</p>					<p>・三好病院は、高度急性期及び急性期病床を維持するとともに、地域医療構想調整会議における議論を踏まえ、西部圏域で不足している回復期病床への一部病床の転換について検討している。なお、徳島県内の新型コロナに対応するため、一部病床を閉鎖するなど、緊急的な措置を取っている中、新たな取り組みである訪問看護の導入を延期しており、今後、新型コロナウイルス感染症の状況を十分に考慮した上で、取り組みを進める。</p> <p>・海部病院は、医療圏内に「療養系の病床」がないことから、平成21年度より「訪問介護」を、平成22年度より「訪問診療」をそれぞれ開始し、平成23年度には在宅看取りを開始し、令和元年7月からは、「地域包括ケア棟」の運用を開始し、地域の医療機関、介護施設等と連携を強化していくことで、地域住民が住み慣れた地域で、長く過ごしていただけるための取組を進めている。</p>	B
	<p>主要指標</p>	<p>計画策定時 (R1年度)</p>	<p>R3年度 実績値</p>	<p>R7年度 目標値</p>	<p>進捗率 (達成率)</p>		
	<p>○リハビリテーション単位数(総数) 【中央病院】</p>	<p>43,784単位/年</p>	<p>55,352単位/年</p>	<p>48,000単位/年</p>	<p>274.4%</p>		
	<p>【三好病院】</p>	<p>22,177単位/年</p>	<p>29,966単位/年</p>	<p>24,000単位/年</p>	<p>427.3%</p>		
	<p>【海部病院】</p>	<p>27,930単位/年</p>	<p>26,226単位/年</p>	<p>30,000単位/年</p>	<p>-82.3%</p>		
	<p>○訪問看護件数 【三好病院】</p>	<p>0件/年</p>	<p>0件/年</p>	<p>100件/年</p>	<p>0.0%</p>		
	<p>【海部病院】</p>	<p>655件/年</p>	<p>904件/年</p>	<p>800件/年</p>	<p>171.7%</p>		

## 主要施策3

### 「危機管理能力の向上」に向けた取組

#### 取組の方向性

未曾有の国難である新たな感染症への対策や南海トラフ巨大地震等の来たるべき大規模災害に備え、災害拠点病院としての機能強化をはじめ、様々な危機事象への対応能力の向上を図ります。

主要施策項目	施策の概要					令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 - その他
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)		
(1) 大規模災害への対応力の強化	<p>南海トラフ巨大地震等に備え、災害拠点病院としての機能が十分果たせるよう、災害発生時の患者受入れ体制を強化します。このため、トリアージ訓練等の実践的な災害訓練や研修を総合メディカルゾーン本部として、また県立3病院と徳島県鳴門病院との連携により実施し、災害時における対処能力の向上に努めます。また、DMA Tの育成・強化を行うとともに、徳島県鳴門病院と連携して災害用医療資機材や災害用食料品等の整備を図ります。さらに、県立3病院の施設・機能に応じた「災害対策マニュアル」や「事業継続計画（BCP）」を整備するとともに、新型インフルエンザへの適切な対応等、危機管理体制の構築を図ります。中央病院に新たに整備するER棟では、災害対策本部及びDMA T活動拠点本部を置くための施設を整備します。</p>					<p>・各病院において、南海トラフ巨大地震を想定した多数傷病者受入訓練や衛星電話等による情報伝達訓練を実施するとともに、災害対策マニュアルの見直し等、災害時に備えた救急救護体制の強化を図った。更に、広域災害にも対応できるよう自衛隊等関係機関との連携訓練を実施し、災害医療体制における連携強化を図った。</p> <p>・DMA Tとして必要な知識を有する専門職員を養成し、災害拠点病院として、発災直後の災害急性期における医療活動を担えるよう、専門職員の養成に努めた。 (中央病院4チーム、三好病院2チーム、海部病院3チーム)</p> <p>・災害用備蓄食料については、県立3病院による共同購入を実施し、計画的な整備に努めた。</p>	B
(2) 感染症対策の充実	<p>新たに整備するER棟に感染症外来をはじめとする施設を整備し、医療機器の導入を進めることで機能強化を図るとともに、三好病院、海部病院においても、感染症病床に医療機器の導入を進め、受入体制の強化を図ります。</p>					<p>・中央病院における救急機能向上や県の医療拠点としての充実強化に向け、ER棟の整備が推進された。</p> <p>・生体情報モニター（ベッドサイドモニター）、HEPAフィルター付空気清浄機等の医療機器を整備し、治療や感染防止のための体制整備に努めた。</p>	B
(3) 院内感染対策の推進	<p>良質・適切な医療提供の基盤となる院内感染対策について、院内感染対策チーム（ICT）を中心とした院内研修会や院内ラウンドの実施により、職員の感染対策に関する意識・知識の向上を図り、予防と発生時の速やかな対応に努めます。また、地域の医療機関や行政機関と連携し、地域の感染対策の向上に寄与します。</p>					<p>・ICT（医師、看護師、検査技師、薬剤師等）では、院内ラウンドやカンファレンスを行い、抗菌薬適正使用の推進や感染対策の改善に努めた。</p> <p>・新型インフルエンザ患者の入院に備え、感染症病床への受け入れ、搬送訓練、PPEの着脱訓練を行い患者発生時の体制設備の確認を行った。</p> <p>・職員（委託業者含む）の感染対策に関する意識・知識の向上に向けた研修をeラーニングも併用し実施した。</p>	B
(4) 広域的な救急医療支援体制の整備	<p>ドクターヘリに加え、ホスピタルカーの活用により三好病院、海部病院、徳島県鳴門病院における重症患者の救命処置等を中央病院医師が支援できるような環境・体制整備の充実に取り組みます。また、ホスピタルカーを活用し、事故現場等に駆けつけるドクターカーの運用にも取り組みます。</p>					<p>・ドクターヘリ（令和3年度:501件） ※H24年度より運航開始</p> <p>・ドクターカー（令和3年度:116件） ①施設間搬送等 69件 ※H29年度より運行開始 ②救急隊からの要請による現場出動令 47件 ※令和2年11月より運行開始。</p>	B

主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	<自己評価> A 達成 B 順調 C 努力 - その他										
(5) 救命救急医療の充実強化	<p>中央病院では、「救急告示医療機関」として、また、重篤患者を対象とした3次救急医療を担う「救命救急センター」としての機能強化を図るため、新しくER棟を整備することにより、感染症外来をはじめとする救命救急機能を強化するとともに、本館棟と連携した体制を構築することで、救命率の向上に努めます。</p> <p>&lt;ER棟について&gt; 中央病院では、これからも県民に高度な医療を提供し、医療機関としての責務を果たしていくため、次の4つの機能を付加・統合したER棟を整備し、本館棟と連携を図ることで、救命救急をはじめとする医療提供体制の充実強化に努めます。</p> <p>① 救命救急機能 常時、高度な救命医療に対応する「救命救急センター」としての機能向上を図るため、ER棟では感染症外来をはじめとする救急医療を充実し、本館棟と連携した体制を構築します。</p> <p>② 災害対応機能 「基幹災害拠点病院」として、発災時に速やかに危機事象に対応できるよう、「災害対策本部」や「DMAT活動拠点本部」においてシームレスで実効性の高い機能を充実させます。</p> <p>③ 人材育成機能 キャリアアップにつながる魅力的な研修体制を確保するため、シミュレーター等を用いて医療技術の習得を図るための施設「スキルスラボ」を整備し、専門性の高い人材を育成します。</p> <p>④ 地域医療支援機能（5Gによるオンライン支援） 医療分野での「Society5.0」を実装するため、「5G網」により県立病院間を接続するとともに、「5Gオンライン診察室」を整備し、遠隔診療・遠隔診断・遠隔救急医療により地域医療を支援します。</p> <table border="1" data-bbox="383 571 1357 687"> <thead> <tr> <th>主要指標</th> <th>計画策定時 (R1年度)</th> <th>R3年度 実績値</th> <th>R6年度 目標値</th> <th>進捗率 (達成率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ER棟の竣工 【中央病院】</td> <td>—</td> <td>着工</td> <td>R4:令和4年末竣工 R6:本館棟改修</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R6年度 目標値	進捗率 (達成率)	○ER棟の竣工 【中央病院】	—	着工	R4:令和4年末竣工 R6:本館棟改修	—	<p>・中央病院における救急機能向上や県の医療拠点としての充実強化に向け、ER棟の整備が推進された。（再掲）</p>	B
主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R6年度 目標値	進捗率 (達成率)									
○ER棟の竣工 【中央病院】	—	着工	R4:令和4年末竣工 R6:本館棟改修	—									
(6) 医療安全対策の推進	<p>医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大と再発の防止に向けて、ヒヤリハット事例の収集・分析により予防対策の充実を図るなど、医療安全管理者を中心とした組織的な医療安全対策に取り組みます。</p> <p>また、医療安全管理者養成研修会等の受講機会を確保するとともに、苦情・クレーム対応を含めた医療安全研修を組織的に実施し、危機管理意識の向上と県立病院における医療安全文化の醸成に努めます。</p>	<p>・県立病院で発生した医療事故について、原因の分析・究明及び再発防止策等の評価・提言を行い、組織的な医療事故防止に資するため、徳島県立病院医療安全対策委員会を開催した。</p> <p>・医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大防止と再発防止に向けて、勉強会・研修会を開催し、積極的な参加や安全への意識の向上に取り組んだ。また、ヒヤリ・ハット報告の重要性を繰り返し伝えた。</p> <p>・医療事故想定訓練を開催し、具体的な事例を示しながら、チームワークの重要性と予防対策について全職員を対象に周知徹底に努めた。</p> <p>・CT/MRI未開封レポート撲滅のため、未開封レポートのチェックを行い、毎月病院局へ報告するとともに、CT/MRI要注意レポートの見逃し防止に向けては、チェック体制を構築し、三病院での統一を図った。</p>	B										

## 主要施策4 「医療の質の向上」に向けた取組

### 取組の方向性

患者やご家族の要望に適切に対応するとともに、高度医療や様々な臨床研究に積極的に取り組むことで、県立病院で提供する医療の質の向上に努めます。

主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 ー その他		
(1) 高度先進医療・臨床研究の充実	<p>県立3病院において、高度技術を要する内視鏡手術、インターベンション医療（血管造影装置等を利用した血管内治療法、海部病院を除く）、脳卒中における血栓溶解療法（t-PA療法）等、高度先進医療の推進を図ります。また、今後とも高度医療機器の計画的な整備を行い、効率的な使用や地域医療連携においても一層の活用を図ります。</p> <p>＜具体例＞</p> <p>【中央病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●手術支援ロボットによる低侵襲手術</li> <li>●リニアックによる高精度放射線治療</li> <li>●PET-CTによる精度の高いがん検査</li> <li>●高度急性期病院として、新薬開発のための治験を積極的に実施</li> <li>●疾病の予防やよりよい診断や治療を目指す臨床研究に取り組むため、視点となる臨床研究部門の設置を検討</li> </ul> <p>【三好病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●関節疾患や椎間板ヘルニア等の脊椎障害に対する先進医療の実施</li> <li>●がんにおける手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療（集学的治療）を実施</li> <li>●西部では唯一の専門的な緩和ケア病棟における質の高いケアを実施</li> </ul> <p>【海部病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●マルチスライスCTシステムによる虚血性心疾患の診断を実施</li> <li>●がんの化学療法を実施</li> </ul>	<p>・中央病院においては、リニアックやPET-CT等による高精度な治療や検査の推進に取り組んだ。</p> <p>【内視鏡下手術支援ロボット：169件、MRI（単純MR：4,361件、造影MR：1,308件）、PET-CT：958件、単純CT：14,812件、造影CT：4,740件、リニアック（放射線治療装置）：2台3,677件（うち高精度放射線治療1,628件）、冠動脈疾患診断支援システム「FFR-CT解析」：115件】</p> <p>・三好病院においては、手術支援ロボットを用いて人工膝関節置換術や脊椎内視鏡手術機器を用いた脊椎手術といった最先進の手術を実施する「高度先進関節脊椎センター」を令和2年4月1日に開設するとともに、がん治療：手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療の推進に努めた。</p> <p>【MRI（単純MR：2,977件、造影MR：207件）、単純CT：7,557件、造影CT：1,030件、リニアック：1,056件】</p> <p>・海部病院においては、H29.5.8新病院開院からマルチスライスCT導入。</p> <p>【単純CT：4,821件、造影CT：302件、MRI（単純MR：1,862件、造影MR：99件）、脳神経外科・整形外科を中心に活用】</p>	B		
	(2) 医療器械等の共同購入の推進	<p>各種医療器械、医薬品、医療材料等の共同購入・交渉について、徳島大学病院や徳島県鳴門病院との連携を充実し、購入費用の低減に取り組めます。</p> <p>さらに、経費削減に向けて、様々な手法を検討します。</p>	<p>・医薬品について、平成29年度から実施している全国のベンチマークを活用したコンサルタント業者による価格交渉支援による価格交渉の強化に努めるとともに、3病院のさらなる共同購入品目数の増加に努め、スケールメリットによる費用の削減を図った。</p> <p>・医薬品、診療材料の標準化を進めるため、平成29年度には、3病院の物品管理システムの「ネットワーク化」や「マスタ統一」など、統一的な運用を開始した。</p>	B	
(3) チーム医療の推進	<p>各病院において高い専門性を有する医療スタッフが、互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」に引き続き取り組みます。</p> <p>また、各チーム合同によるカンファレンスや研修会を積極的に実施します。</p> <p>＜具体例＞</p> <p>栄養サポートチーム、院内感染制御チーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、排泄ケアチーム、糖尿病チーム、口腔ケアチーム、化学療法推進チーム、呼吸ケアサポートチーム、摂食嚥下チーム、DMAT（災害派遣チーム）、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチームなど</p> <p>さらには、各職種においてそれぞれの専門性を発揮し、患者のQOL（生活の質）を高め、回復力・予防力の向上に貢献する指導や相談事業等を積極的に実施します。</p>	<p>・医師をリーダーとして多職種で構成される診療チームとして、NST（栄養サポートチーム）、褥瘡対策チーム、ICT（院内感染制御チーム）、緩和ケアチーム、糖尿病チーム、呼吸ケアサポートチーム、口腔ケアチーム、精神科リエゾンチーム、フライトチーム、ICLSチーム、DMAT、DPATなど多数のチームが活動しており、病棟ラウンド・チームカンファレンス等を実施するなど、良質で安全な医療の提供に取り組んだ。</p> <p>・チーム活動の一環である院外に向けた研修会や患者教室等については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一部活動を制限している。</p>	B		
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)
	○薬剤管理指導件数 【中央病院】	16,633件	15,084件	17,000件	-42.1%
【三好病院】	2,644件	2,844件	3,500件	23.4%	
【海部病院】	1,045件	1,183件	1,800件	18.3%	



主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	<自己評価> A 達成 B 順調 C 努力 - その他
(4) 病院機能評価の継続受審	医療の質のさらなる向上や医療の透明性を確保するため、(公財)日本医療機能評価機構による機能評価を継続的に受審し、組織的な課題把握と改善を図ります。	・3病院とともに、病院機能評価を受審し、認定を受け、認定期間中の確認として報告を行い、更なる改善に取り組み、医療の質の向上に努めた。今後も引き続き、効率的な運営を目指して業務改善等に取り組む。	B
(5) 患者・職員の満足度の向上	患者からの様々な相談や要望に適切に対応し、安心して診療・治療が受けられるよう、総合相談の窓口において十分な患者サポートに努めます。 「外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関」として、情報通信機器等による医療通訳を活用し、外国人患者が安心して受診できる体制の充実に努めます。 県立病院では、「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」に基づき、医療の提供にあたって、手話通訳等による障がいの特性に応じた情報保障に努めます。 毎年度、患者満足度調査を実施し、調査結果の分析・検証と組織内での共有化を図り、ひとつでも多く速やかに改善に結びつけ、患者さんにより一層満足いただけるよう取り組みます。 また、病院職員が個の人間性を高め、個の能力を伸ばし、患者中心の医療を行うことができるよう、働きやすい環境の整備を図ります。	・病院局職員を含む県職員が対象となる「徳島県特定事業主行動計画」を見直し、平成27～令和6年度までの新たな計画を策定している。引き続き、子育てと仕事の両立を支援し、働きやすい職場環境づくりに努めていく。 ・相談窓口は、患者さんからの病氣、受診等に関する相談や質問、専門部署への案内などを行い、患者さんの満足度の向上に努めている。 ・毎年、患者満足度調査を実施し、調査結果については、全職員で情報共有するとともに、職員を対象に接遇研修を実施し、接遇能力の向上を図った。 ・新型コロナウイルスにより、面会が制限されている入院患者へのサービスを高めるため、オンラインで面会が可能となるよう、院内Wifiの整備を進めた。	B
(6) 患者からの信頼を得る医療の推進	患者自身やご家族が治療の内容に納得し、安心して治療に専念できるよう、病状や治療計画等について十分に説明する「インフォームドコンセント」に引き続き取り組みます。 治療方針の選択にあたって主治医以外の専門医の意見を聞く「セカンドオピニオン相談」のさらなる周知を図り、患者自身はもとよりご家族の不安を解消し、治療に関する自己決定の支援に努めます。 診療結果や治療成績、看護指標などの「臨床指標」について、ホームページ等を通じて県民に公表し、医療の質の向上に努めます。	・患者の治療に関わる情報を確実に説明し、同意を得る「インフォームドコンセント」について、誠意を持って説明に取り組んでいる。 ・「セカンドオピニオン外来」を開設して、がん又はその疑いのある患者さんやご家族からの相談を受けている。 ・「臨床指標の公表」については、入院・外来患者数等の病院の基礎的情報や退院患者の集計を基にした統計データをホームページに掲載することにより、県民や患者さんに病院機能、医療情報の可視化を行い、医療の質の向上に繋がるよう努めている。	B
(7) 広報活動の充実	病院局や各病院のホームページを充実することで、県民や医療従事者を指す方に各病院の診療概要や特徴、最近の取組などをできる限り分かりやすく提供するとともに、県立病院の魅力や特色が伝えられるような情報発信に努めます。 また、地域医療への取組状況に関する情報等を積極的に発信するとともに、各病院広報誌や各自治体広報誌を通じた広報活動も積極的に実施します。	・病院局、各県立病院のホームページにおいて、診療案内、各種指標等の積極的な情報提供を行い、患者サービスの向上に努めるとともに、イベント等の新着情報についても掲載し、患者や医療関係者に情報発信を行った。 ・広報誌、各種パンフレットを発行し、関係機関や来院者に配布し、情報提供を積極的に行った。 ・患者満足度調査の結果を踏まえ、県民にとってわかりやすいホームページへとリニューアルを行った。	B

主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 - その他
(8) 快適な病院利用環境の整備	平成31年2月に開通した総合メディカルゾーン本部内の主要道路となるメディカルストリートを活用し、駐車場の共同利用、路線バスの構内乗り入れ等を継続し、利用者の利便性向上を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディカルゾーン構想外構工事について、平成31年2月2日に中央病院と徳島大学病院をつなぐメディカルストリートが開通するとともに、中央病院の駐車場について、徳島大学病院との共同利用、料金の統一化を図るとともに、病院敷地内への路線バスの乗り入れが開始されるなど、患者の利便性向上が図れている</li> <li>・患者の療養環境の向上に向け、院内のWifi環境を整備した。</li> <li>・海部病院は、平成29年5月8日に、高台に移転し開院した。開院に併せて路線バス(上下16便)が構内乗り入れを開始。また、立体駐車場を整備し合計183台分の駐車スペースを確保した。</li> </ul>	B
(9) 最新の情報通信機器を活用した遠隔医療の推進	<p>「Society5.0」を実装するためのツールとして、超高速・超低遅延・多数同時接続の特性を有する次世代の移動通信システムである「5G」を活用し、徳島医療コンソーシアムを中心として、地域医療の課題解決に向け、遠隔診療、遠隔診断、遠隔救急医療の実装に向けた取組を推進します。</p> <p>総合メディカルゾーン本部を核とした医療連携を強化するため、徳島県鳴門病院や徳島大学病院をはじめ、地域の医療機関との連携を目指し、地域医療ネットワークの充実等により、医療情報基盤を活用していきます。</p> <p>さらに、海部病院におけるKサポートシステムの取組成果を踏まえ、今後、スマートフォンやタブレット端末を活用した当システムの一層の推進を検討していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「徳島医療コンソーシアム推進協議会」を開催し、「5G関係事業の展開」についての情報共有を図っている。</li> <li>・海部病院に5G遠隔診療室を開設するとともに、中央病院と海部病院間において、糖尿病遠隔診療及び内視鏡遠隔診断支援を開始した。(再掲)</li> <li>・中央病院・三好病院間において、8K腹腔鏡の映像伝送による実証事業を実施するとともに、皮膚科遠隔診療支援の開始に向け、実証実験を行った。(再掲)</li> <li>・海部病院において、救急当直医の専門外の治療を実施するにあたり、CT・MRI画像等を専門医に伝送し、コンサルを受けることにより、的確な診断と当直医の負担軽減を図ることが可能な「海部病院遠隔診療支援システム(Kサポートシステム)」を運用した。</li> </ul>	B

## 主要施策5 「経営の効率化」に向けた取組

### 取組の方向性

継続的・安定的な医療の提供に向け、一般会計からの適切な繰入措置の下で、的確な経営分析に基づく効率的な経営に努め、「収入の確保」と「費用の削減」に向けた取組を推進します。

主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	＜自己評価＞ A 達成 B 順調 C 努力 - その他			
<p><b>＜一般会計負担の考え方＞</b> 本来、地方公営企業は、独立採算になじまない部分については一般会計の負担の下に経営することが地方公営企業法で認められています。地方公営企業の経費のうち、一般会計等において負担すべき経費は、</p> <p>① その性質上、地方公営企業に負担させることが適当でない経費（地方公営企業法第17条の2第1項第1号） ② その地方公営企業の性質上、当該企業がいかに能率的な経営を行っても、それに要する経費の全額を受益者に負担させることが客観的に困難であると認められる経費（地方公営企業法第17条の2第1項第2号）と定められており、さらにその負担の趣旨と基準は総務省自治財政局長通知により示されています。</p> <p>県立病院は、地域における中核的病院として、救急医療、周産期・小児医療、災害医療、へき地医療などの政策医療や不採算医療に取り組んでおり、今後も地域の医療課題へ対応するために、より一層の取組強化が求められます。</p> <p>病院事業では、これらの政策医療や不採算医療などに要する経費については、一般会計から適正な繰入措置を行った上で、地方公営企業の病院として、効率的な経営に努めます。</p>						
<p><b>＜収入確保の強化＞</b></p>						
(1) 急性期医療の重点化	<p>急性期機能の重点化を図るため、適正な平均在院日数と病床利用率の管理に取り組むとともに、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の増加を目指します。</p> <p>中央病院では、「本県医療の中核拠点」としての高度急性期機能の発揮を目指して、ER棟の整備に伴う救命救急・集中治療等の機能を拡充し、新規入院患者数の増加を図ります。</p> <p>三好病院では「四国中央部の拠点」として高度急性期機能並びに急性期医療機能の発揮を目指して、新規入院患者数の増加に取り組めます。</p> <p>海部病院では、「南部圏域における地域医療拠点」として急性期医療機能の発揮を目指して、新規入院患者数の増加に取り組めます。</p>	<p>・中央病院は、高度急性期病院・3次救急病院として、高度な医療機械を導入し、重篤な患者を積極的に受け入れている。</p> <p>平成29年4月より外傷センターを設け、より専門性の高いプロフェッショナルによる救命向上に努めた。</p> <p>外来機能の役割分担について、地域医療機関との連携を推進し、新規患者の確保に努めるとともに、入院期間Ⅰ＋Ⅱの割合が80%以上という目標に対し、平均在院日数の適正な管理に努めた結果、概ね目標を達成することができた。</p> <p>・三好病院は、急性期型病院としての機能の重点化を図るため、平成28年3月から7：1入院基本料の施設基準を取得し、平均在院日数の適正管理に努めた。また、地域の医療機関との連携を推進し、新規入院患者の受け入れを図った。</p> <p>今後、四国中央部の拠点として、急性期病院としての地域での役割を明確化し、救急入院及び紹介入院による新規入院患者数の受け入れに取り組み、収益の増加を図っていく。</p> <p>・しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響がいつまで続くのか不透明なところである。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、新規入院患者数、平均在院日数や病床利用率などの重要指標は悪化した。</p>	C			
	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度 実績値	R7年度 目標値	進捗率 (達成率)	
	○平均在院日数	【中央病院】	9.8日	10.5日	9.6日	-350.0%
	(精神病床及び緩和ケア病床除く)	【三好病院】	13.7日	14.1日	13.5日	-200.0%
		【海部病院】	11.3日	12.0日	12.0日	-
	○1日平均新規入院患者数	【中央病院】	32.1名	24.5名	33.0名	-844.4%
	(精神病床及び緩和ケア病床除く)	【三好病院】	9.2名	8.0名	10.5名	-92.3%
	【海部病院】	3.1名	4.2名	4.0名	122.2%	
○病床利用率(一般病床)	【中央病院】	84.2%	69.3%	86.0%	-827.8%	
	【三好病院】	68.3%	55.2%	70.0%	-770.6%	
	【海部病院】	70.4%	43.3%	72.0%	-1693.8%	
(2) DPC分析による経営戦略の策定	<p>各病院のDPC（診断群分類別包括評価）データを基にした経営分析を行い、他病院のデータとの比較等の分析を加えて経営戦略の策定に生かします。</p> <p>また、より一層の戦略的な経営展開を図るため、必要に応じて外部コンサルタントの活用を検討します。</p>	<p>・DPC対象病院として、診療情報管理、コーディング委員会を開催し、厚労省に提出しているDPCデータを用い、適宜分析を行うほか、DPC精度向上に取り組んでいる。</p> <p>・平均在院日数や地域でのシェア等を分析し、DPCデータを用いた経営分析、適切なコーディングに関する精度向上に努め、入院診療実績の向上を図った。</p>	B			

主要施策項目	施策の概要	令和3年度 取組の概要	<自己評価> A 達成 B 順調 C 努力 - その他																																			
(3) 診療報酬制度への戦略的な取組	適切な医業収益の確保のため、国の医療制度改革の方向性や各病院の医療機能の整備状況に即した新たな施設基準の取得など、診療報酬制度への迅速・的確な対応を図ります。 また、医師、診療情報管理士、事務、医事委託業者等によるチームで、査定内容・傾向の分析、「請求漏れ」対策に取り組みます。	・診療報酬検討会を開催し、査定結果等を医療スタッフにフィードバックするとともに、請求漏れ、誤りの防止、査定減対策等、請求精度の向上に努めた。 ・令和4年4月の診療報酬改定に迅速に対応するため、早期より情報収集を行った。 ・新型コロナウイルス感染症に関して設けられたいろいろな特例診療報酬の活用や、確実な請求に努めた。	B																																			
(4) 未収金の発生防止と回収促進	診療費用の患者負担分について、医療費に関する支払相談の充実、身元引受兼債務保証書の徴収徹底、職員間の連携等により、未収金の発生防止に努めます。 未収金が発生した場合には、早期の納入指導を徹底するとともに、適宜、文書・電話・面接等による督促を実施し、回収不能債権の発生防止を図ります。 また、一定の要件を満たす場合には、弁護士法人への回収業務を委託、支払督促等の法的措置により、未収金の回収に取り組みます。	令和3年度の医業未収金（患者負担分）は、3病院の合計で2億1,170万7千円あり、令和2年度末未収金の2億3,015万7千円より1,845万円減少している。 ・医事受託業者等との連携による未収金発生抑制及び回収の促進、電話や戸別訪問による督促を実施した。 ・一定の要件を満たす場合の法的措置（支払い督促）実施した。 ・回収が困難となっているものについては、弁護士法人に回収を委託する。 ・個別債権の検討ワーキンググループにより回収に向けた方策を調査検討した。	B																																			
(5) 医師の確保と育成（再掲）	-	-	-																																			
<b>&lt;経費削減の強化と効率化の推進&gt;</b>																																						
(1) 後発医薬品の採用	<table border="1" data-bbox="383 730 1357 1118"> <thead> <tr> <th data-bbox="383 730 786 778">主要指標</th> <th data-bbox="786 730 931 778">計画策定時 (R1年度)</th> <th data-bbox="931 730 1070 778">R3年度実績値</th> <th data-bbox="1070 730 1216 778">R7年度目標値</th> <th data-bbox="1216 730 1357 778">進捗率 (達成率)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="383 778 786 831">○後発医薬品採用数 【中央病院】</td> <td data-bbox="786 778 931 831">329品目</td> <td data-bbox="931 778 1070 831">339品目</td> <td data-bbox="1070 778 1216 831">370品目</td> <td data-bbox="1216 778 1357 831">24.4%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 831 786 884">【三好病院】</td> <td data-bbox="786 831 931 884">276品目</td> <td data-bbox="931 831 1070 884">289品目</td> <td data-bbox="1070 831 1216 884">330品目</td> <td data-bbox="1216 831 1357 884">24.1%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 884 786 936">【海部病院】</td> <td data-bbox="786 884 931 936">229品目</td> <td data-bbox="931 884 1070 936">241品目</td> <td data-bbox="1070 884 1216 936">250品目</td> <td data-bbox="1216 884 1357 936">57.1%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 936 786 989">○後発医薬品割合 【中央病院】</td> <td data-bbox="786 936 931 989">88.7%</td> <td data-bbox="931 936 1070 989">90.2%</td> <td data-bbox="1070 936 1216 989">90.0%</td> <td data-bbox="1216 936 1357 989">115.4%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 989 786 1042">【三好病院】</td> <td data-bbox="786 989 931 1042">89.7%</td> <td data-bbox="931 989 1070 1042">92.0%</td> <td data-bbox="1070 989 1216 1042">90.0%</td> <td data-bbox="1216 989 1357 1042">766.7%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="383 1042 786 1094">【海部病院】</td> <td data-bbox="786 1042 931 1094">93.9%</td> <td data-bbox="931 1042 1070 1094">95.8%</td> <td data-bbox="1070 1042 1216 1094">90.0%</td> <td data-bbox="1216 1042 1357 1094">-</td> </tr> </tbody> </table>	主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度実績値	R7年度目標値	進捗率 (達成率)	○後発医薬品採用数 【中央病院】	329品目	339品目	370品目	24.4%	【三好病院】	276品目	289品目	330品目	24.1%	【海部病院】	229品目	241品目	250品目	57.1%	○後発医薬品割合 【中央病院】	88.7%	90.2%	90.0%	115.4%	【三好病院】	89.7%	92.0%	90.0%	766.7%	【海部病院】	93.9%	95.8%	90.0%	-	<p>・患者負担の軽減とともに費用の削減につながる後発医薬品の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な採用に取り組んだ。</p> <p>・後発医薬品数量割合は、令和3年度末において、すべての病院で「90%」を超えており計画目標を達成している。引き続き各病院の薬事審議会を通じて採用医薬品について随時、後発医薬品への切り替えを進めていく。</p>	B
主要指標	計画策定時 (R1年度)	R3年度実績値	R7年度目標値	進捗率 (達成率)																																		
○後発医薬品採用数 【中央病院】	329品目	339品目	370品目	24.4%																																		
【三好病院】	276品目	289品目	330品目	24.1%																																		
【海部病院】	229品目	241品目	250品目	57.1%																																		
○後発医薬品割合 【中央病院】	88.7%	90.2%	90.0%	115.4%																																		
【三好病院】	89.7%	92.0%	90.0%	766.7%																																		
【海部病院】	93.9%	95.8%	90.0%	-																																		
(2) 医療器械等の共同購入の推進（再掲）	医療材料の共同購入品目数 300品目	-	-																																			
(3) 効率的な委託契約の推進	業務委託契約については、引き続き、契約の見直しを進め、病院業務の特殊性・専門性・質の確保を考慮しつつ、長期継続契約の推進に努めるとともに、各病院毎に個別に契約している同種の業務について、スケールメリットを活かした一括契約への変更を推進し、経費の節減に取り組めます。 また、委託業務については、定期的に業務内容の検証、評価を行い、効率的な執行に努めます。	<p>・物品管理・洗浄滅菌業務については、スケールメリットを活かし、病院局において、3病院を一括した契約を締結した。</p> <p>・医事、警備、清掃業務等で一般競争入札又はプロポーザルを実施し、長期継続契約を締結するとともに、検査・給食などの各委託業務内容の見直しについて検討し、効率化及び経費の節減に努めた。</p>	B																																			
(4) 事務部門のスリム化と強化	事務部門が効率的に業務を遂行し、病院経営における専門性を強化するために、改築事業等の進展や、本局・病院間の業務配分の見直しに伴う体制変更を検討するとともに、医事部門・医療情報部門・地域連携部門・物品購入部門における専門性の高い職員採用及び育成を図ります。	<p>・各病院において、課を廃止し、担当制とし、各担当にリーダーを配置することで、効率的な業務の遂行を行うとともに、本局に改築事業を推進する専門職員を配置するとともに、病院で勤務経験のある事務職OBを再任用職員として配置している。</p>	B																																			
(5) 病院資産の有効活用	平成31年3月に策定した「徳島県病院施設長寿命化計画」の整備方針に基づき、不具合等を未然に防止する「予防保全」型管理により、外壁補修、屋上防水、設備機器の更新等を、機能向上を図りながら計画的に実施します。	<p>・平成29年2月に解体した中央病院の医師公舎跡地に、不足する駐車場スペースを新たに整備し、有効活用によるサービスの向上を図った。</p> <p>・旧海部病院の敷地等の一部について、バス運行会社への使用許可による遊休資産の有効活用を図った。</p>	B																																			

# 「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」の概要

## 第1 公立病院経営強化の必要性

- 公立病院は、これまで**再編・ネットワーク化、経営形態の見直し**などに取り組んできたが、**医師・看護師等の不足**、人口減少・少子高齢化に伴う医療需要の変化等により、依然として、**持続可能な経営を確保しきれない病院も多い**のが実態。
- また、コロナ対応に公立病院が中核的な役割を果たし、**感染症拡大時の対応における公立病院の果たす役割**の重要性が改めて認識されるとともに、病院間の役割分担の明確化・最適化や医師・看護師等の確保などの取組を平時から進めておく必要性が浮き彫りとなった。
- 今後、**医師の時間外労働規制への対応**も迫られるなど、さらに厳しい状況が見込まれる。
- 持続可能な地域医療提供体制を確保するため、**限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用するという視点**を最も重視し、新興感染症の感染拡大時等の対応という視点も持って、**公立病院の経営を強化していくことが重要**。

## 第2 地方公共団体における公立病院経営強化プランの策定

- 策定期間 令和4年度又は令和5年度中に策定
- プランの期間 策定年度又はその次年度～令和9年度を標準
- プランの内容 **持続可能な地域医療提供体制を確保**するため、地域の実情を踏まえつつ、必要な**経営強化の取組**を記載

### 公立病院経営強化プランの内容

#### (1) 役割・機能の最適化と連携の強化

- ・ 地域医療構想等を踏まえた当該病院の果たすべき役割・機能
- ・ 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能
- ・ **機能分化・連携強化**

各公立病院の役割・機能を明確化・最適化し、連携を強化。特に、地域において中核的医療を行う基幹病院に急性期機能を集約して医師・看護師等を確保し、基幹病院以外の病院等は回復期機能・初期救急等を担うなど、双方の間の役割分担を明確化するとともに、連携を強化することが重要。

#### (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革

- ・ **医師・看護師等の確保**（特に、不採算地区病院等への医師派遣を強化）
- ・ 医師の**働き方改革**への対応

#### (3) 経営形態の見直し

#### (4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

#### (5) 施設・設備の最適化

- ・ 施設・設備の適正管理と整備費の抑制
- ・ デジタル化への対応

#### (6) 経営の効率化等

- ・ 経営指標に係る数値目標

## 第3 都道府県の役割・責任の強化

- 都道府県が、市町村のプラン策定や公立病院の施設の新設・建替等にあたり、地域医療構想との整合性等について積極的に助言。
- 医療資源が比較的充実した**都道府県立病院等が、中小規模の公立病院等との連携・支援を強化**していくことが重要。

## 第4 経営強化プランの策定・点検・評価・公表

- 病院事業担当部局だけでなく、企画・財政担当部局や医療政策担当部局など関係部局が連携して策定。関係者と丁寧に意見交換するとともに、策定段階から議会、住民に適切に説明。
- 概ね年1回以上点検・評価を行い、その結果を公表するとともに、必要に応じ、プランを改定。

## 第5 財政措置

- **機能分化・連携強化**に伴う施設整備等に係る病院事業債（特別分）や**医師派遣**に係る特別交付税措置を**拡充**。

「徳島県病院事業経営強化計画（素案）」の概要**1 策定の趣旨**

令和4年3月に総務省から示された「公立病院経営強化ガイドライン」を踏まえ、新興感染症への対応と通常医療の両立を図りながら、県立病院としての機能・価値を高め、関連病院との連携・機能分担の下、経営の改善・安定化を推進するための取組指針として策定。

**2 計画の期間**

令和5年度～令和9年度（5年間）

※「徳島県病院事業経営計画（第2期）」（R3～R7）は、令和5年3月末をもって廃止。

**3 計画の概要****（1）現状の課題**

- ① 新興感染症対応と通常医療との両立
- ② ポストコロナを見据えた経営の改善、安定化
- ③ 医師・看護師等の確保、勤務環境の整備

**（2）経営強化に向けた重点項目****① 新興感染症対応と通常医療との両立に向けた医療提供体制の構築**

- ・ 中央病院ER棟を拠点とする重篤な患者の受入れ強化
- ・ 三好病院における新たな外来棟の検討 ※ \_\_\_\_\_ : 新たな取組
- ・ 感染拡大時を想定した医療提供体制の整備
- ・ 新興感染症に対応可能な看護師等の養成・配置

**② 県立病院としての機能・価値の向上**

## ○各病院の機能充実

**中央病院**

- ・ ER棟において、感染症対応、救命救急、災害医療、人材育成、遠隔診療を強化
- ・ 本館棟の改修により、三次救急機能の強化、ICU等の拡充を図る

**三好病院**

- ・ 高度急性期から回復期まで、地域のニーズを踏まえたシームレスな医療を提供
- ・ 「西の教育の拠点」として、初期臨床医、地域特別枠医師の人材育成機能を拡充

**海部病院**

- ・ 「先端災害医療の拠点」として、急性期医療機能を発揮
- ・ 「地域包括ケア病棟」による在宅復帰支援、関係医療機関と連携した「在宅医療」を推進

- 「医療DX」の推進
  - ・「遠隔医療」の更なる推進（「徳島医療コンソーシアム」構成病院への展開等）
  - ・「情報セキュリティ対策」の強化
  - ・IoT、AI等の技術を活用した業務改善や「マイナンバー」への対応
  - ・「医療DX」を推進する情報化人材の育成と体制強化
  - ・「2025年大阪・関西万博」での本県遠隔医療の発信

### ③機能分化・連携強化

- ・新型コロナ対応における「重点医療機関」としての機能発揮
- ・「徳島医療コンソーシアム」での遠隔医療の展開や人事交流に係る連携強化
- ・「第8次保健医療計画」（R5策定予定）を踏まえた役割分担・連携強化への対応

### ④経営力の強化

- ・他県での成功事例等を踏まえた最適な経営形態の研究
- ・病院経営に関する専門人材の採用・育成及び外部コンサル等の活用
- ・新たな診療報酬加算の獲得、未収金の早期回収等による収益拡大

### ⑤医師・看護師等の確保策の強化、働き方改革の推進

#### ○医師・看護師等の確保策の強化

- ・「地域特別枠医師」等の確保、「寄附講座」による医療提供体制の確保・充実
- ・看護師等の処遇改善の実施、適正な給与水準の確保
- ・「医師事務作業補助者」、「看護助手」等の効果的な配置

#### ○医師・看護師等の研修・勤務環境の改善・充実

- ・高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医の育成
- ・県立3病院の診療機能の特性を活かした魅力ある教育環境の整備
- ・男女問わず働きやすい環境づくりや海部病院の医師公舎等の整備

#### ○医師・看護師等の働き方改革の推進

- ・医師の確保による診療体制の充実、宿日直許可取得等による労働時間短縮
- ・特定看護師の育成、病棟薬剤師の配置等によるタスクシフティング等の推進

### (3) 取組目標

※検討中。

### (4) 収支計画

※検討中。

#### 【主な検討ポイント】

- ① 新型コロナによる影響の見通し
- ② 医師・看護師等の確保見込み（増員方針）
- ③ 各病院の機能強化等に伴う増収見込み
- ④ 三好病院・新外来棟の概算整備コストの反映

## 4 今後の予定

- 11月 11月議会へ素案を報告  
パブリックコメント実施
- 2月 第2回「県立病院を良くする会」にて最終案を審議  
2月議会へ最終案を報告
- 3月 計画完成

**徳島県病院事業経営強化計画**  
**(徳島県立病院経営強化プラン)**  
**(素案)**

令和4年11月

徳島県病院局



# 目 次

県立病院の基本理念・基本方針	1
<b>I 基本的事項</b>	2
1 策定の趣旨	2
2 計画の位置づけ	2
3 計画の期間	2
<b>II 現状の課題と経営強化の方向性</b>	3
1 県立病院の概要	3
2 経営の状況	4
（1）収支の状況	4
（2）経営指標の状況	4
（3）新型コロナウイルス感染症による影響	4
3 現状の課題	8
（1）新興感染症対応と通常医療との両立	8
（2）経営の改善，安定化	8
（3）医師・看護師等の確保，勤務環境の整備	8
4 経営強化の方向性	8
（1）新興感染症対応と通常医療との両立に向けた医療提供体制の構築	8
（2）県立病院としての機能・価値の向上	8
（3）機能分化・連携強化	9
（4）経営力の強化	9
（5）医師・看護師等の確保策の強化，働き方改革の推進	9
<b>III 重点項目</b>	10
1 新興感染症対応と通常医療との両立に向けた医療提供体制の構築	10
（1）ER棟等の整備による感染症への対応力向上	10
（2）新興感染症拡大時を想定した医療提供体制の整備	10
（3）感染拡大時におけるBCPの整備，訓練等の実施	10
（4）新興感染症に対応可能な看護師等の養成・配置	10
2 県立病院としての機能・価値の向上	10
（1）長期的視点に立った役割	10
（2）各病院の機能充実	11
（3）医療の質向上と安全・安心な医療提供	12
（4）「医療DX」の推進	13
（5）専門人材の育成	14
（6）利用者満足度の向上	14
（7）県立病院の魅力向上と情報発信	15
（8）患者からの信頼を得る医療の推進	15

<b>3 機能分化・連携強化</b>	15
(1) 新型コロナ対応における役割分担と連携	15
(2) 「徳島医療コンソーシアム」等における連携	15
(3) 「第8次徳島県保健医療計画」等を踏まえた対応	16
<b>4 経営力の強化</b>	16
(1) 最適な経営形態の研究	16
(2) 事務局機能の強化	16
(3) 外部人材等の活用	16
(4) 収益拡大に向けた取組	16
(5) 経費の抑制に向けた取組	16
(6) 施設・設備の適正管理と整備費の抑制	17
(7) 一般会計からの適正な繰入措置	17
<b>5 医師・看護師等の確保策の強化，働き方改革の推進</b>	17
(1) 医師・看護師等の確保策の強化	17
(2) 医師・看護師等の研修・勤務環境の改善・充実	17
(3) 医師・看護師等の働き方改革の推進・看護師等	17

## **IV 取組目標一覧** ..... 19

## **V 収支計画** ..... 20

1 収支計画	20
2 主な経営指標	21

## **VI 計画の推進** ..... 24

1 進行管理	24
2 点検・評価・公表	24
3 計画の見直し	24

## 県立病院の基本理念・基本方針

### ○基本理念

「県民に支えられた病院として、県民医療の最後の砦となる」

### ○基本方針

- 1 県立病院は、人間性、倫理性に基づいた患者の人権を尊重する医療サービスを提供します。
- 2 県立病院は、県民がいつでも、どこでも、等しく高度な保健医療サービスが受けられる徳島づくりに貢献します。
- 3 県立病院は、常に医療の使命と情熱に燃える医療技術集団を目指します。
- 4 県立病院は、質が高く効率的な医療の実現に職員一丸となって取り組みます。

# I 基本的事項

## 1 策定の趣旨

県立病院においては、これまで、総務省から示された「公立病院改革ガイドライン（平成19年度）」及び「新公立病院改革ガイドライン（平成26年度）」に基づき、「経営の効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」や「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」を盛り込んだ「徳島県病院事業経営計画」を策定し、病院経営の改善に努めてきました。

しかし、医師・看護師等の不足、人口減少や少子高齢化の急速な進行に伴う医療需要の変化、医療の高度化への対応など、経営環境の急激な変化により、より一層の経営改善・強化が必要となっています。

特に、令和2年に発生し、今もなお世界的に流行している「新型コロナウイルス感染症」に対し、県立病院では、「第二種感染症指定医療機関」として積極的な病床確保と感染者の受け入れを行い、重要な役割を果たして来ましたが、その一方で、経営面では大きな影響を受けることとなりました。

こうした中、令和4年3月に総務省から、「持続可能な地域医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」が新たに示され、個々の公立病院の経営が、持続可能となり、明確化・最適化した役割・機能を発揮し続けることが可能となるよう、役割・機能の最適化と連携の強化、医師・看護師等の確保と働き方改革、経営形態の見直し、新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組、施設・設備の最適化、経営の効率化等を記載した「公立病院経営強化プラン」の策定を求められたところです。

このような状況を踏まえ、新興感染症への対応と通常医療の両立を図りながら、県立病院としての機能・価値を高め、関連病院との連携・機能分担の下、経営の改善・安定化を推進するための取組指針として、新たに「徳島県病院事業経営強化計画（以下、「本計画」という）」を策定するものです。

## 2 計画の位置づけ

総務省の「持続可能な医療提供体制を確保するための公立病院経営強化ガイドライン」（R4.3.29）に基づく「公立病院経営強化プラン」に位置づけます。

なお、令和3年4月に策定した「徳島県病院事業経営計画（第2期）」については、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間としておりましたが、令和5年度以降の取組を本計画に引き継ぎ、令和5年3月末をもって廃止します。

## 3 計画の期間

本計画の期間は、令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

## II 現状の課題と経営強化の方向性

### 1 県立病院の概要

(令和4年4月1日現在)

		県立中央病院	県立三好病院	県立海部病院
所在地		徳島市蔵本町	三好市池田町	海部郡牟岐町
保健医療圏		東部保健医療圏	西部保健医療圏	南部保健医療圏
開設年月日		昭和28年7月1日	昭和31年1月1日	昭和38年4月1日
診療科		内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 脳神経内科 血液内科 糖尿病・代謝内科 感染症内科	内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 脳神経内科 緩和ケア内科	内科
		外科 心臓血管外科 脳神経外科 整形外科 形成外科	外科 脳神経外科 整形外科 形成外科	外科 脳神経外科 整形外科
		精神科 小児科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 病理診断科 臨床検査科 救急科 麻酔科 歯科口腔外科 (26診療科)	小児科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 放射線科 救急科 麻酔科 (19診療科)	小児科 産婦人科 耳鼻咽喉科 放射線科 (8診療科)
許可病床数	一般	390 床	206 床	102 床
	結核	5 床	8 床	4 床
	精神	60 床	—	—
	感染症	5 床	6 床	4 床
	計	460 床	220 床	110 床
主な指定医療機関等		<ul style="list-style-type: none"> <li>救急告示病院（3次）</li> <li>救命救急センター</li> <li>ドクターヘリ基地病院</li> <li>第二種感染症指定医療機関</li> <li>へき地医療拠点病院</li> <li>地域医療支援病院</li> <li>災害拠点病院（基幹災害医療センター）</li> <li>地域がん診療連携拠点病院（高度型）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急告示病院（3次）</li> <li>救命救急センター</li> <li>第二種感染症指定医療機関</li> <li>へき地医療拠点病院</li> <li>地域医療支援病院</li> <li>災害拠点病院（地域災害医療センター）</li> <li>地域がん診療病院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急告示病院（2次）</li> <li>第二種感染症指定医療機関</li> <li>へき地医療拠点病院</li> <li>在宅療養支援病院</li> <li>災害拠点病院（地域災害医療センター）</li> </ul>

## 2 経営の状況

### (1) 収支の状況

医業収益においては、令和元年度までは、海部病院の地域包括ケア病棟の運用開始等、地域の実情に応じた取組により、3病院ともに医業収益は増加傾向にありましたが、令和2年度以降、減少傾向に転じています。

一方、医業費用においては、給与費の増加や高度医療の提供による材料費等の増加が続く、その結果、医業収支及び経常収支が令和3年度まで連続して赤字となっています。

特に、令和2年度以降、新型コロナの影響により、医業収支及び経常収支が大幅に悪化しましたが、国からコロナ患者を受け入れる病床を確保するための「病床確保料」を受けたことにより、全体収支（純損益）は黒字となっています。

### 直近5年間の決算状況

(単位:百万円)

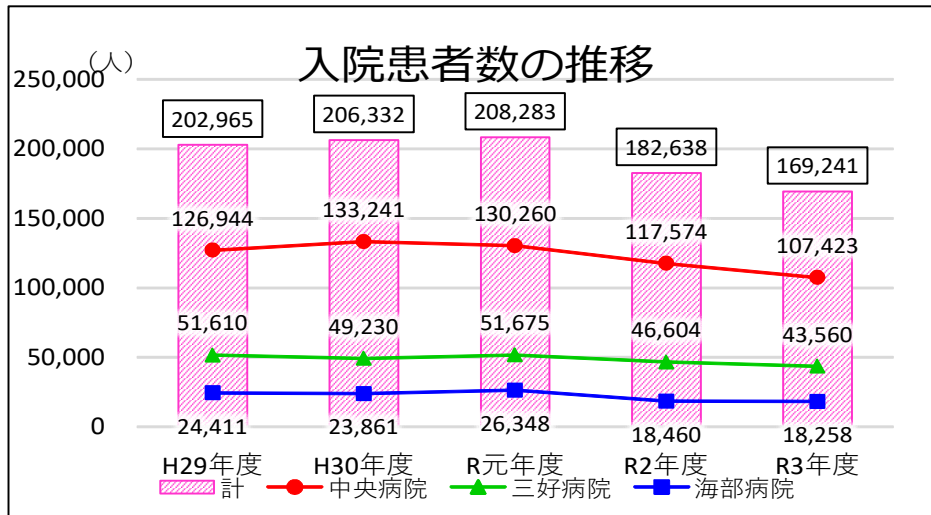
区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
総収益	23,094	23,407	24,358	27,090	27,714
医業収益	19,187	19,630	20,775	20,031	19,727
医業外収益	3,907	3,777	3,583	3,977	3,970
特別利益	0	0	0	3,083	4,016
(うち一般会計繰入金)	(3,436)	(3,349)	(3,303)	(3,585)	(3,550)
総費用	23,597	23,986	24,622	25,987	25,920
医業費用	22,108	22,570	23,116	23,021	23,726
医業外費用	1,489	1,416	1,506	2,206	2,188
特別損失	0	0	0	760	7
医業収支	▲ 2,920	▲ 2,941	▲ 2,341	▲ 2,989	▲ 3,998
経常収支	▲ 503	▲ 579	▲ 264	▲ 1,219	▲ 2,216
純損益	▲ 503	▲ 579	▲ 264	1,103	1,794
内部留保資金	1,697	1,496	1,513	2,899	4,929

### (2) 経営指標の状況

新型コロナによる影響が本格化する前の令和元年度までは、入院患者数や救急搬送患者数が増加しており、外来患者数や救急患者数についても増加傾向にありましたが、令和2年度は、いずれの指標も減少し、令和3年度においても、救急患者数を除きさらに減少しています。

### (3) 新型コロナウイルス感染症による影響

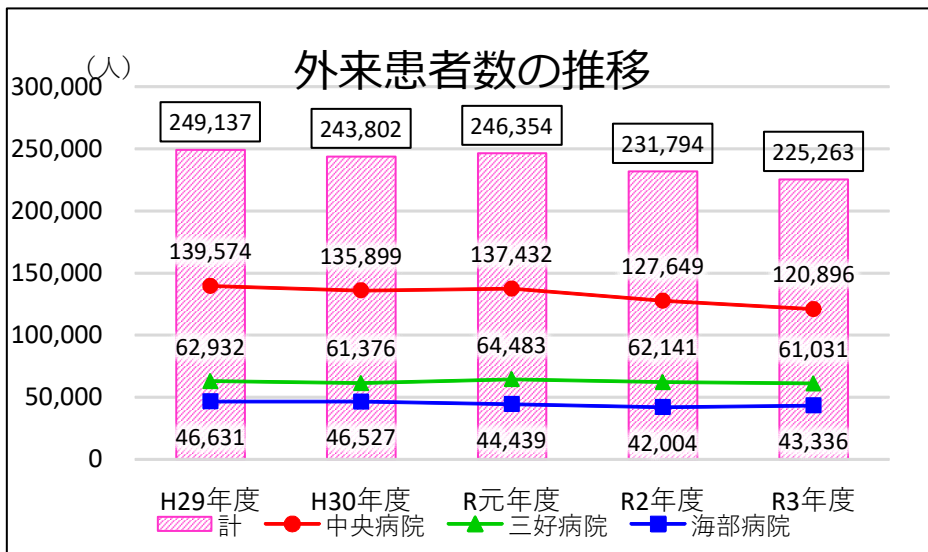
令和2年度以降、「第二種感染症指定医療機関」としてコロナ患者を積極的に受け入れるとともに、感染拡大に伴い、病棟の一部閉鎖や診療の一時的制限を余儀なくされた結果、新規入院患者数や手術件数が大幅に減少し、医業収益が悪化するなど、病院経営に大きな影響が生じています。



(1日当たり)

(単位:人)

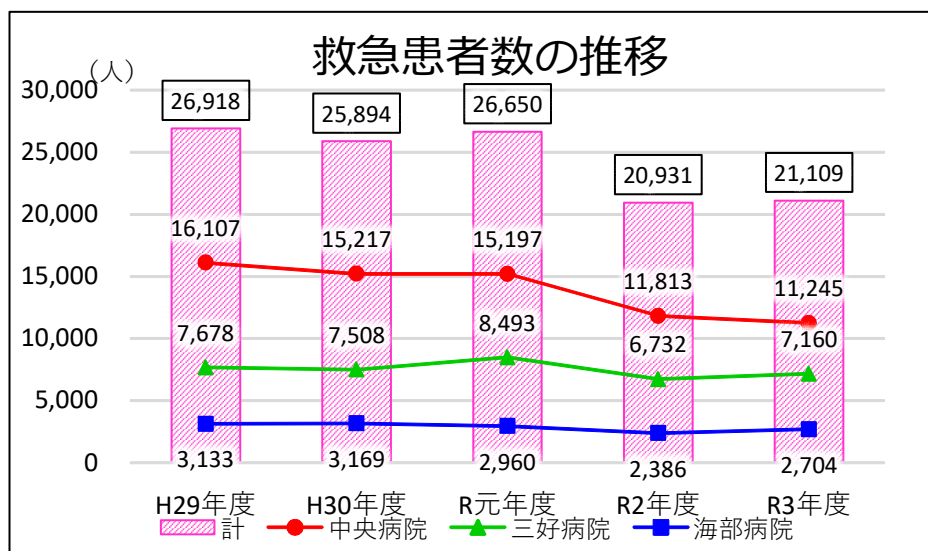
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
中央病院	347.8	365.0	355.9	322.1	294.3
三好病院	141.4	134.9	141.2	127.7	119.3
海部病院	66.9	65.4	72.0	50.6	50.0
計	556.1	565.3	569.1	500.4	463.7



(1日当たり)

(単位:人)

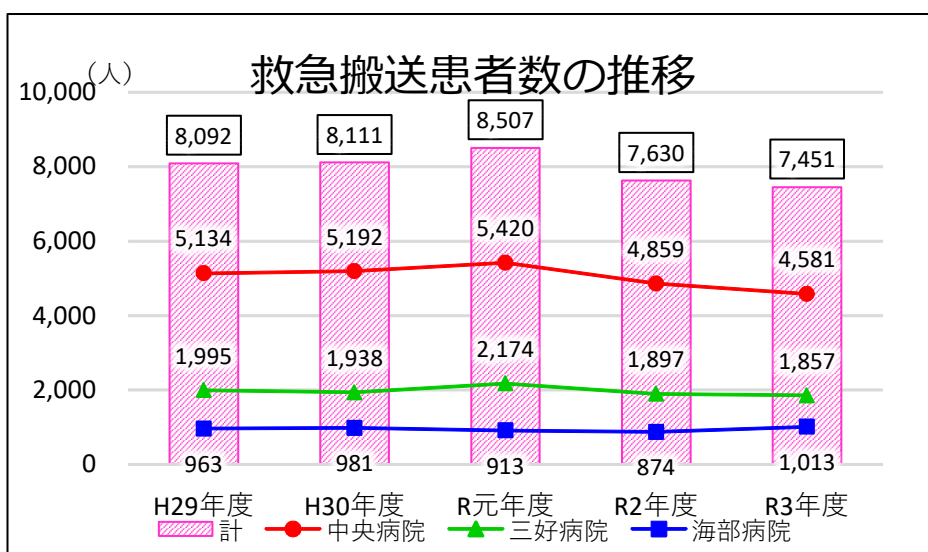
	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
中央病院	572.0	557.0	572.6	525.3	499.6
三好病院	257.9	251.5	268.7	255.7	252.2
海部病院	191.1	190.7	185.2	172.9	179.1
計	1,021.1	999.2	1,026.5	953.9	930.8



(1日当たり)

(単位:人)

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
中央病院	44.1	41.7	41.5	32.4	30.8
三好病院	21.0	20.6	23.2	18.4	19.6
海部病院	8.6	8.7	8.1	6.5	7.4
計	73.7	70.9	72.8	57.3	57.8

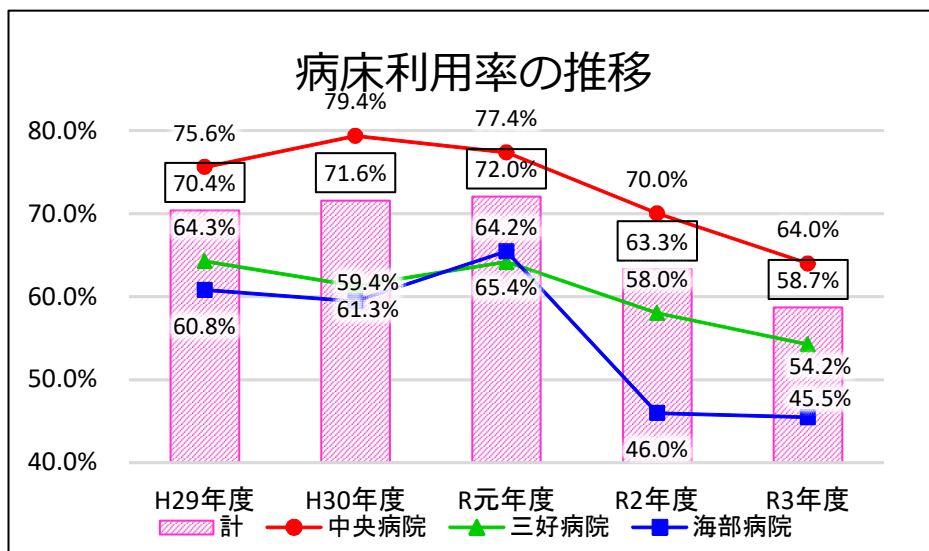
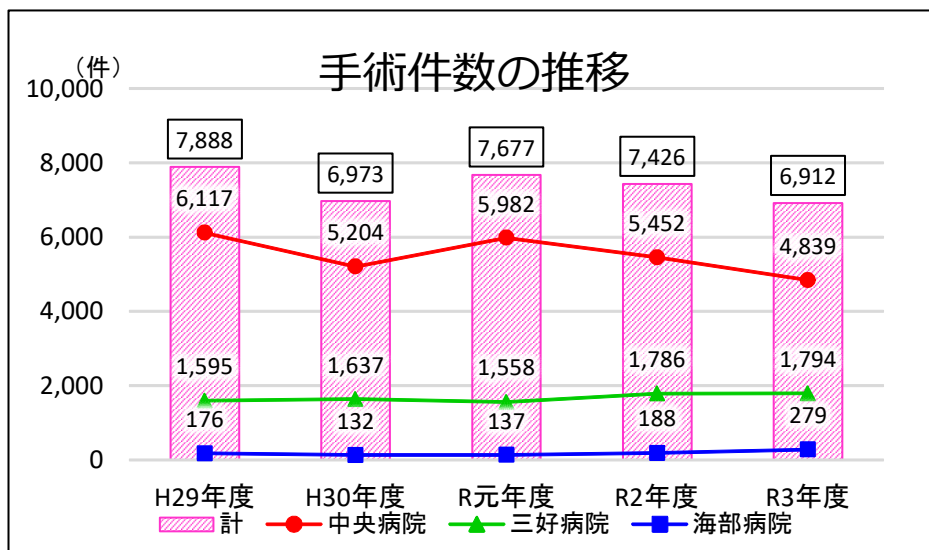
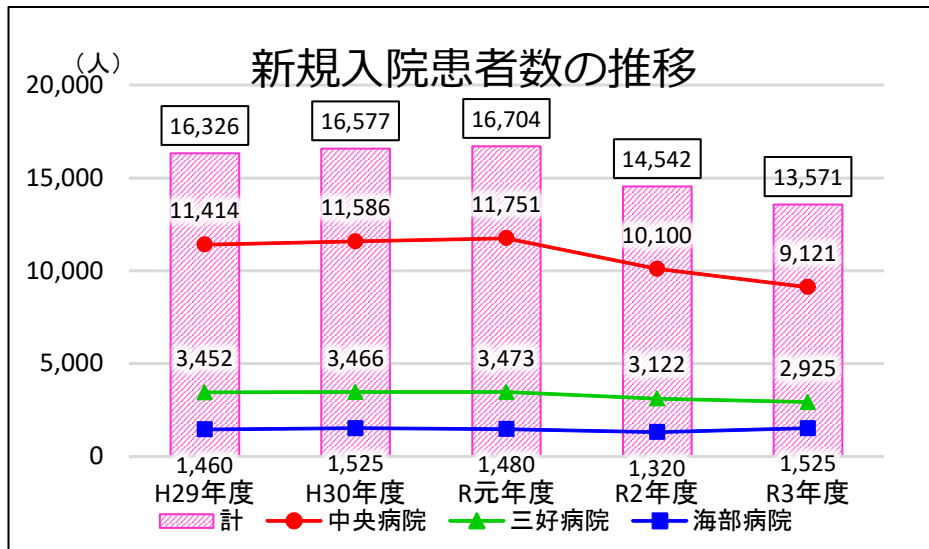


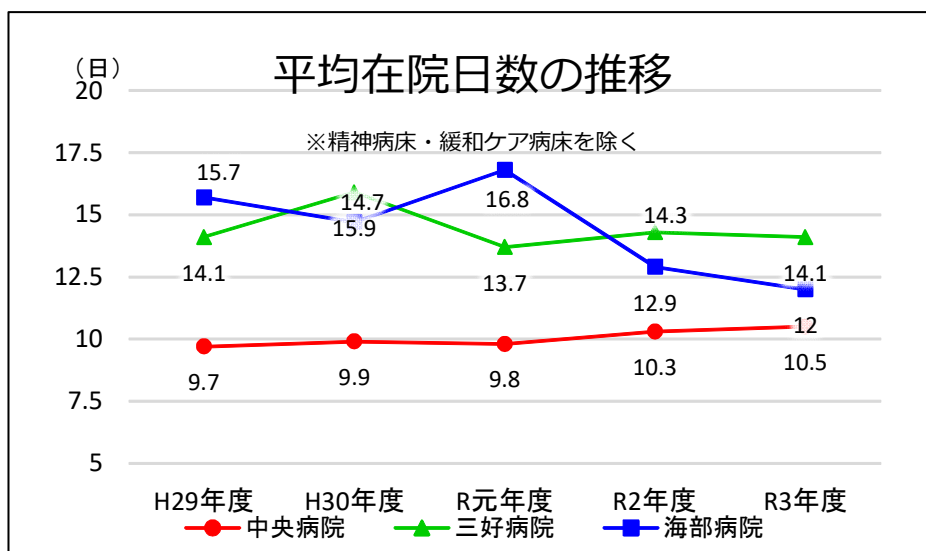
(1日当たり)

(単位:人)

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
中央病院	14.1	14.2	14.8	13.3	12.6
三好病院	5.5	5.3	5.9	5.2	5.1
海部病院	2.6	2.7	2.5	2.4	2.8
計	22.2	22.2	23.2	20.9	20.4







### 3 現状の課題

#### (1) 新興感染症対応と通常医療との両立

新型コロナの感染拡大に対応するために必要病床や看護師等を確保したこと等により、通常医療の提供にも大きな影響が生じており、今後、急性期医療など県立病院としての役割・機能を十分に果たしていくためには、将来を見据え、「新興感染症への対応」と「通常医療」を両立させる持続可能な医療提供体制を構築することが急務となっています。

#### (2) 経営の改善, 安定化

新型コロナの影響により、診療実績や経常損益が大きく悪化しており、「ポストコロナ」を見据え、早期に診療実績をコロナ前の水準まで回復させ、経営の改善, 安定化を図る必要があります。

#### (3) 医師・看護師等の確保, 勤務環境の整備

将来にわたって、県民に質の高い医療を安定的に提供していくためには、医師・看護師をはじめとする医療従事者を「計画的に確保」とともに、病院で勤務するすべての人が、健康で働きがいを持って医療に従事できる「勤務環境」を整備する必要があります。

### 4 経営強化の方向性

#### (1) 新興感染症対応と通常医療との両立に向けた医療提供体制の構築

新型コロナにより県立病院の経営が大きな影響を受けたことを踏まえ、新興感染症への対応と通常医療を両立できる医療提供体制を構築し、県立病院としての役割を果たしつつ、経営の改善・安定化を推進します。

#### (2) 県立病院としての機能・価値の向上

県民の皆様や地域の医療機関から信頼される病院となるため、地域ニーズに応じた機能拡充を積極的に図り、県立病院としての価値を高めます。

### **(3) 機能分化・連携強化**

地域の実情やニーズを踏まえ、県立病院として担うべき役割や機能を明確化した上で、「徳島医療コンソーシアム」等における関係医療機関との連携を強化することにより、限られた医療資源を最大限に有効活用し、地域医療体制の更なる発展を図ります。

### **(4) 経営力の強化**

最適な経営形態の下、専門人材の確保・育成、「外部人材の活用」等により経営力を強化し、経営の改善・安定化を戦略的かつ効率的に推進します。

### **(5) 医師・看護師等の確保策の強化，働き方改革の推進**

県立病院としての役割・機能を果たすため、医師・看護師等の医療人材を確保するための対策を強化するとともに、「医師等の働き方改革」を積極的に推進することにより、職員一人ひとりが健康で働きがいをもって勤務できる環境を整備します。

## III 重点項目

### 1 新興感染症対応と通常医療との両立に向けた医療提供体制の構築

#### (1) ER棟等の整備による感染症への対応力向上

新たに整備した中央病院ER棟の「救急・感染症外来」は、全面陰圧化され、今後発生しうる新興感染症によるパンデミックにも対応できる機能を有しており、今後、当施設を拠点として、重篤な患者を中心に受け入れを強化します。

また、三好病院においては、新興感染症への対応と通常医療の両立はもとより、県西部の様々なニーズに対応できる新たな外来棟の整備に向けた検討を着実に進めます。

#### (2) 新興感染症拡大時を想定した医療提供体制の整備

新興感染症が感染拡大した際にも通常医療を最大限維持することができるよう、感染拡大時を想定した医療提供体制の整備に向け、医療従事者の計画的な確保や専門人材の育成に努めます。

良質・適切な医療提供の基盤となる院内感染対策について、「院内感染対策チーム(ICT)」を中心とした院内研修会や院内ラウンドの実施により、職員の感染対策に関する意識・知識の向上を図り、予防と発生時の速やかな対応に努めます。

また、地域医療機関との感染対策に対する連携や相談、指導の強化を図ります。

#### (3) 感染拡大時におけるBCPの整備、訓練等の実施

新興感染症等の感染拡大時には、一般の医療連携体制にも大きな影響が及ぶため、発生後速やかに対応できるよう予め準備を進めておくことが重要となります。

今後は、新興感染症等の感染拡大時に備え、予め県内医療機関との役割分担を明確化し、対応方針の共有を図った上で、院内において感染拡大時のBCP(業務継続計画)を適宜見直し、定期的に訓練を行うとともに、感染状況が長期化する場合にも対応できるよう、院内感染対策や感染防護具等の備蓄を計画的に進めます。

#### (4) 新興感染症に対応可能な看護師等の養成・配置

新興感染症が感染拡大した際には、即時に感染症病床の受入れ体制を強化できるよう、平時から感染症病床の看護にあたることのできる看護師等を養成・配置します。

また、「感染管理認定看護師」や「認定薬剤師」等の複数配置に向け、計画的な養成を推進します。

### 2 県立病院としての機能・価値の向上

#### (1) 長期的視点に立った役割

##### ① 中央病院「本県医療の中核拠点」

- 県民医療最後の砦としての高度医療の拠点
- 県下全域を対象に新生児から高齢者まで全ての世代をカバーする救命救急の拠点
- 地域医療を担う人材を生み育てる臨床研究の拠点
- 南海トラフ巨大地震等の発災時に基幹的役割を果たす災害医療の拠点

## ②三好病院「四国中央部の拠点」

- 救命救急センターを有する西の拠点
- 西部圏域唯一の基幹型臨床研修病院であり，西の教育の拠点
- 西部圏域の医療機関と連携し，地域全体の医療の質の向上を担う地域医療支援病院
- 手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアによる「フルセットのがん医療」を提供

## ③海部病院「先端災害医療の拠点」

- 南海トラフの巨大地震を迎え撃つ前線基地
- 地域医療研究センターを有する総合診療医の育成道場
- 海部・那賀地域公立医療機関に対する医師派遣の拠点

### (2) 各病院の機能充実

平成28年10月に策定された「徳島県地域医療構想」に基づき，地域医療構想調整会議において，県立病院が担うこととされた機能の更なる充実を図ることにより，地域における県立病院の価値を高め，県民の皆様から信頼され，選ばれる病院として進化します。

#### 県立病院における医療機能ごとの病床数

	必要病床数		
	2020年	2025年(予定)	増減
中央病院			
高度急性期	141	141	0
急性期	249	249	0
合計	390	390	
三好病院			
高度急性期	10	45	35
急性期	196	113	▲ 83
回復期	0	48	48
合計	206	206	
海部病院			
急性期	50	50	0
回復期	52	52	0
合計	102	102	

※ 一般病床のみ

## ①中央病院

「本県医療の中核拠点」として、がん、脳卒中、心筋梗塞などの各種疾病における高度急性期医療を担うとともに、救命救急センターやドクターヘリ、小児救急等の救急医療や、周産期・小児医療、災害医療、へき地医療支援、精神科医療などを担います。

また、新たに整備した「ER棟」において、新興感染症への対応をはじめ、救命救急、災害医療、人材育成、遠隔診療による地域医療支援を強化します。

さらに、「ER棟」と一体的に整備を行う本館棟の改修において、三次救急機能の強化及び患者の状態に応じた手厚い医療体制とするICU等の充実を図るとともに、がん治療のための外来化学療法室を拡充します。

加えて、「地域包括ケアシステム」の構築に向けては、地域医療支援病院として、関係する医療機関、介護施設等と連携を図り、患者の早期の在宅等への復帰支援に取り組むとともに、復帰後の在宅医療を支援する役割を担います。

## ②三好病院

「四国中央部の拠点」として、手術・化学療法・放射線治療・緩和ケアによる「フルセットのがん医療」をはじめ、高度先進関節脊椎センターによる関節脊椎分野での最先端手術など、高度急性期医療から回復期医療まで、地域のニーズに応じたシームレスな医療サービスを提供します。

また、西部圏域唯一の「基幹型臨床研修病院」であり、西の教育の拠点として、初期臨床医や地域特別枠医師の人材育成機能を拡充し、地域医療の充実を図ります。

さらに、今後も起こりうる新興感染症に備えつつ、高度急性期から回復期まで地域のニーズを踏まえたシームレスな医療を安定的に提供していくため、新たな機能を備えた「外来棟」の整備を着実に進めます。

「地域包括ケアシステム」の構築に向けては、地域医療支援病院として、関係する医療機関、介護施設等と連携を図り、患者の早期の在宅等への復帰支援に取り組むとともに、地域包括ケア病棟を整備し、西部圏域において不足することが見込まれる回復期機能の役割を担います。

## ③海部病院

「先端災害医療の拠点」として、急性期医療機能を発揮し、南海トラフ巨大地震に対する最前線の災害医療拠点を担うとともに、「地域医療研究センター」により、地域医療を担う医師の養成・確保を図ります。

また、「地域包括ケアシステム」の構築に向けては、関係する医療機関・施設等と連携を図り、患者の早期在宅等への復帰支援に取り組むとともに、令和元年7月に導入した「地域包括ケア病棟」におけるリハビリテーション機能の活用等により患者の状態にあわせた在宅復帰支援を行います。

さらに、在宅療養支援病院として、自ら在宅医療を行うとともに、郡医師会・県看護協会との3者間で締結した「海部郡における在宅療養連携推進協定」に基づき、地域の主治医不在時や緊急時に海部病院がバックアップするなど、住民が安全・安心に自宅で療養できるよう、南部Ⅱ保健医療圏域における在宅医療を推進する役割を担います。

### (3) 医療の質向上と安全・安心な医療提供

県立3病院において、高度技術を要する内視鏡手術、インターベンション医療（血管撮影装置等を利用した血管内治療法、海部病院を除く）、脳卒中における血栓溶解療法（t-PA療法）等、「高度先進医療」の推進を図ります。また、今後とも高度医療機器の計画的な整備を行い、効率的な使用や地域医療連携においても一層の活用を図ります。

### <具体例>

- 【中央病院】 ●手術支援ロボットによる低侵襲手術
- リニアックによる高精度放射線治療
- PET-CTによる精度の高いがん検査
- 高度急性期病院として、新薬開発のための治験を積極的に実施
- 疾病の予防やよりよい診断や治療を目指す臨床研究に取り組むため、拠点となる臨床研究部門の設置を検討
  
- 【三好病院】 ●西部圏域唯一の救命救急センターを有し、安全・安心な医療を提供
- 関節疾患や椎間板ヘルニア等の脊椎障害に対する先進医療の実施
- がんにおける手術・化学療法・放射線治療による質の高い治療（集学的治療）を実施
- 西部では唯一の専門的な緩和ケア病棟における質の高いケアを実施
  
- 【海部病院】 ●マルチスライスCTシステムによる虚血性心疾患の診断を実施
- 地域と連携した地域包括ケアシステムの実践
- 救命救急医療における医療DXの実践
- 専門医による5Gを用いた遠隔医療支援の導入

各病院において高い専門性を有する医療スタッフが、互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供する「チーム医療」に引き続き取り組むとともに、各職種においてそれぞれの専門性を発揮し、患者の「QOL（生活の質）」を高め、回復力・予防力の向上に貢献する指導や相談事業等を積極的に実施します。

また、医療事故の未然防止、発生した事故の影響拡大と再発の防止に向けて、ヒヤリハット事例の収集・分析により予防対策の充実を図るなど、医療安全管理者を中心とした組織的な医療安全対策に取り組みます。

さらに、南海トラフ巨大地震等に備え、災害拠点病院としての機能が十分果たせるよう、災害発生時の患者受入れ体制を強化するとともに、「DMAT」の育成・強化を図ります。

## (4) 「医療DX」の推進

### ○「遠隔医療」の更なる推進

中央病院ER棟におけるローカル5Gとキャリア5Gの連携環境（ハイブリッド5G）を活用し、「5G遠隔医療の拠点」として遠隔診断や遠隔診療支援、救急搬送に係る遠隔データの広域連携など、遠隔医療の更なる推進に取り組めます。

また、「徳島医療コンソーシアム」構成病院間における診療支援体制の具体化に向けた取組を推進するとともに、へき地診療所との連携により、オンラインによる診療支援が可能となる環境整備を図り、医師や診療科の地域偏在への対応、医師の働き方改革等の推進につなげます。

さらに、将来を見据え、県立病院におけるオンライン診療業務をマネジメントする役割を担う「遠隔医療センター（仮称）」の設置に向けた検討を進めます。

### ○「情報セキュリティ対策」の強化

令和3年度の県内医療機関へのサイバー攻撃による被害を受けて、県立病院ではインターネットVPNの強化、振る舞い検知システムの導入等の対策を行い、令和4年度には最新の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」（R4.4厚生労働省）に基づくバックアップ体制を構築するなど、「技術的対策」を優先的に強化してきたところです。

令和5年度からは、定期的な訓練の実施をはじめとする「人的対策」や施設や機材への「物理的対策」を推進するとともに、マニュアルの継続的な検証・改善及び医療情報人材の採用・育成による体制強化など「組織的対策」を積極的に推進します。

#### ○「医療DX」による業務改善の推進

県立3病院の電子カルテシステムを中心とした医療情報システムの統一化による成果を踏まえ、遠隔画像診断を進めるとともに、DXの進展や医療環境の変化に対応して適宜システムの見直しを図ります。

また、IoT、AI等の技術を積極的に活用し、医療の質の向上のみならず、業務の効率化、省力化を推進します。

さらには、患者サービスの向上と医療現場の業務効率化を実現する「医療DX」を推進するため、情報化人材の育成と体制強化に取り組みます。

#### ○「マイナンバー」への対応

健康保険証利用をはじめ、「マイナンバーカード」を活用したデジタル化を推進することにより、医療保険事務の効率化や患者の利便性向上を図ります。

#### ○「2025年大阪・関西万博」での本県遠隔医療の発信

大阪・関西万博「徳島まるごとパビリオン」のひとつとして、県立3病院及び徳島医療コンソーシアム構成医療機関における先進的活用事例を発信し、本県遠隔医療の更なる推進に向けた機運醸成を図ります。

### (5) 専門人材の育成

高度化・専門化する医療に対応するため、各県立病院がそれぞれの担うべき機能に応じた研修の方針・計画を策定し、職員の資質向上を図ります。

県立病院の医師を、大学や教育研究機関、高度先進医療機関、国際学会等に派遣し、「特に高度な専門的知識及び技能」を習得させることにより、医師個人の資質向上はもとより、院内における知識技能の共有により、全体的なレベルアップを図ります。

また、看護師や薬剤師など、各職種での資格取得、知識・技能の習得及びその共有に努めます。

さらには、県内における大学看護学科、看護学校からの実習生の受入れを通じ、県内全体の看護職確保や質の向上に資するとともに、受入れ体制として、さらに細やかな対応ができるよう看護学生実習指導者等の育成に努めます。

薬剤師については、将来を担う薬剤師の育成を目的とし、薬学部からの実習生を受け入れ、育成に努めます。

### (6) 利用者満足度の向上

患者の皆様からの様々な相談や要望に適切に対応し、安心して診療・治療が受けられるよう、総合相談の窓口において十分な患者サポートに努めるとともに、これまでの取組に加え、院内での自発的な取組（「香川征・県立病院CS向上推進事業」等）を積極的に推進します。

また、「外国人患者を受け入れる拠点的な医療機関」として、情報通信機器等による医療通訳を活用し、外国人患者が安心して受診できる体制の充実に努めるとともに、「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」に基づき、医療の提供にあたって、手話通訳等による障がいの特性に応じた情報保障に努めます。

さらに、毎年度、患者満足度調査を実施し、調査結果の分析・検証と組織内での共有化を図り、ひとつでも多く速やかに改善に結びつけ、患者の皆様により一層満足いただけるよう取り組みます。



### (7) 県立病院の魅力向上と情報発信

更なる医療機能の充実や患者サービスの向上等により県立病院の魅力をアップさせるとともに、県立病院が持つ強みや魅力をホームページやSNSにより積極的に発信します。

また、住民に「開かれた病院」として、地域の住民が病院運営に参加いただける機会を設け、各病院の現状を明らかにするとともに、地域医療を共に考え、共に支えていただけるような関係づくりに努めます。

さらに、診療結果や治療成績、看護指標等の「臨床指標」について、ホームページ等を通じて県民に公表し、医療の質の向上に努めます。

### (8) 患者からの信頼を得る医療の推進

患者自身やご家族が治療の内容に納得し、安心して治療に専念できるよう、病状や治療計画等について十分に説明する「インフォームドコンセント」に引き続き取り組みます。

また、治療方針の選択にあたって主治医以外の専門医の意見を聞く「セカンドオピニオン相談」のさらなる周知を図り、患者自身はもとよりご家族の不安を解消し、治療に関する自己決定の支援に努めます。

さらに、各病院の機能や特性に応じた疾病・療養に関する公開講座の開催や、病院でのボランティア等地域住民との協働に取り組みます。

## 3 機能分化・連携強化

### (1) 新型コロナ対応における役割分担と連携

「新型コロナウイルス感染症対策協議会」を中心に、徳島大学、県立病院など16病院が「重点医療機関」として入院が必要なコロナ患者を受入れ、46の「後方支援病院」が新型コロナから回復した患者の転院を受け入れるなど、機能分担して対応しており、今後もこの枠組みを維持しながら、県全体で新型コロナ対策を推進する上で、感染状況に即応した病床の確保と入院患者の受入れ等、県立病院としての役割を果たしていきます。

### (2) 「徳島医療コンソーシアム」等における連携

県内15の公立公的病院による包括的な連携体制である「徳島医療コンソーシアム」では、「徳島医療コンソーシアム推進協議会」を開催し、本県の地域医療の充実、医療の質の向上及び医療提供体制の発展を目指し、「5G」による遠隔医療の展開、医師・看護師等の人事交流等の取組みを進めています。

また、「総合メディカルゾーン」においては、県立中央病院と徳島大学病院が隣接しているという地理的条件を活かし、県内医療の拠点化、地域医療及び救急医療を担う医師等の育成、施設・設備面での効率的な運営等、相互の連携強化に努めています。

県立病院として、「徳島医療コンソーシアム」や「総合メディカルゾーン」における連携強化により、限られた医療資源を最大限に有効活用し、地域医療体制の更なる発展を図っていきます。

「徳島県鳴門病院」との連携においては、平成25年4月の設立以来、病院局経営戦略会議への参加による情報共有をはじめ、県立3病院と合わせた「4病院」による薬品・診療材料の共同交渉の実施や災害医療面における連携等を図っているところであり、今後も、人事交流を含め効果的な連携・協力を一層推進するとともに、4病院によるさらなる一体的な医療提供体制の構築を目指して、検討・協議を進めます。

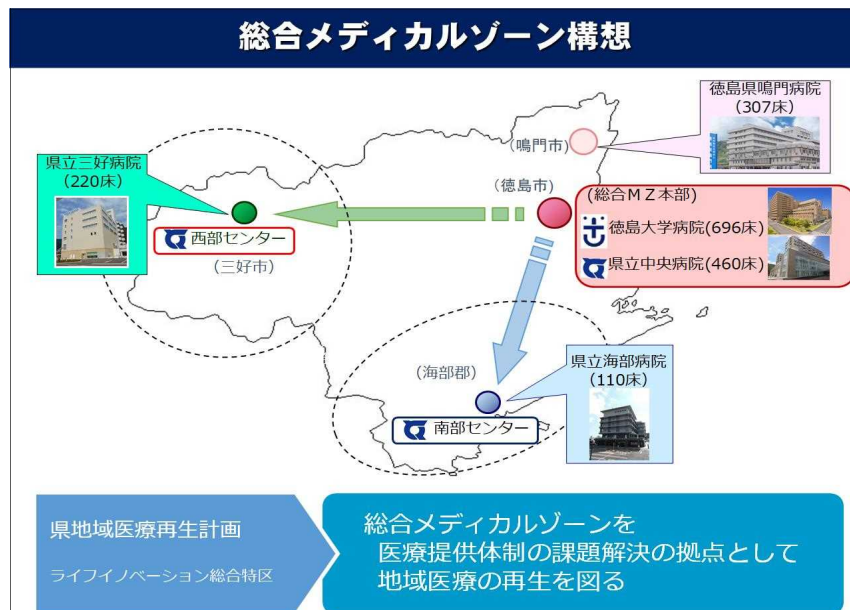
加えて、令和3年6月に徳島県歯科医師会との間で締結した「医科歯科連携の推進に係る相互協力に関する協定」に基づき、地域における医科歯科連携の充実強化を図ることにより、入院患者や在宅等で療養を行う患者への切れ目のない支援を展開し、地域包括ケアシステムの推進につなげます。

## 連携を図る公立・公的15病院



徳島県立病院（中央病院・三好病院・海部病院）／徳島大学病院／地方独立行政法人徳島県鳴門病院／三好市国民健康保険市立三野病院／那賀町立上那賀病院／美波町国民健康保険美波病院／海陽町国民健康保険海南病院／つるぎ町立半田病院／徳島赤十字病院／J A 徳島厚生連病院（吉野川医療センター・阿南医療センター）／徳島市民病院／国民健康保険勝浦病院

## 総合メディカルゾーンの主な機能



### <本部機能>

- ・ 県民の安心を目指した「救命・救急医療，小児救急医療，災害医療，地域医療」の拠点
- ・ 県民の健康を目指した「周産期医療，がん医療，感染症医療，生活習慣病医療」の拠点
- ・ 県民医療の発展を目指した「医療情報，医療従事者教育」の拠点

### <各センター機能>

- ・ 徳島大学の寄附講座設置による医師の地域偏在対応
- ・ ドクターヘリによるヘリポートを活用した救急搬送
- ・ 西部センターでの「徳島県西部医療圏における適正な医療を確保するための協定書」に基づく相互支援
- ・ 南部センターでの「海部・那賀モデル」による医師派遣
- ・ 北部ブランチとなる徳島県鳴門病院との連携

### (3) 「第8次徳島県保健医療計画」等を踏まえた対応

「公立病院経営強化ガイドライン」が求める、将来の医療需要予測に対応した県内医療機関の再編・機能分化等については、令和5年度に策定予定の「第8次徳島県保健医療計画」における地域医療構想の内容を踏まえながら、他の医療機関との役割分担や連携強化について適切に対応します。

## 4 経営力の強化

### (1) 最適な経営形態の研究

徳島県病院事業では、平成17年度から地方公営企業法全部適用で経営を行い、一定の成果を上げてきましたが、公立病院を取り巻く経営環境が厳しさを増す中、全国的にも経営形態の見直しが進んでおり、「公立病院経営強化ガイドライン」でも「経営形態の見直し」が求められています。

今後も、「地方公営企業法全部適用」の形態による経営強化に取り組むとともに、「第8次徳島県保健医療計画」における地域医療構想の内容及び他県の成功事例等を踏まえながら、県立病院として地域医療を守るための経営形態について、引き続き研究を行います。

### (2) 事務局機能の強化

事務部門が効率的に業務を遂行するとともに、各病院の「DPC（診断群分類別包括評価）データ」を基にした経営分析を行い、経営戦略の策定を行う診療情報管理部門の体制強化を図るなど、病院経営における専門性の強化を推進します。

また、本局・病院間の業務配分の見直しに伴う体制変更を検討するとともに、医事部門・医療情報部門・地域連携部門等における、病院経営に関する豊富な知識・経験を有する専門性の高い職員の採用及び育成を図ります。

### (3) 外部人材等の活用

より一層の戦略的な経営展開を図るため、必要に応じて「外部経営アドバイザー・民間コンサル等」の活用を検討するなど、専門的な知識・経験を有する外部人材の積極的な活用を進めます。

また、医療の質のさらなる向上や医療の透明性を確保するため、(公財)日本医療機能評価機構による「機能評価」を継続的に受審し、組織的な課題把握と改善を図ります。

### (4) 収益拡大に向けた取組

適正な平均在院日数と病床利用率の管理に取り組むとともに、新規入院患者の増加に向け、地域の医療機関との連携を強化し、紹介患者の増加や転院先となる後方支援病院の確保を推進します。

病院機能の拡充や医療提供体制の強化により、新たな診療報酬加算を獲得するとともに、適切な医業収益の確保のため、国の医療制度改革の方向性や各病院の医療機能の整備状況に即した新たな施設基準の取得など、診療報酬制度への迅速・的確な対応を図ります。

医療費に関する支払相談の充実、身元引受兼債務保証書の徴収徹底等により、「未収金」の発生防止に努めるとともに、未収金が発生した場合には、早期の納入指導を徹底し、適宜、文書・電話・面接等による督促を実施の上、回収不能債権の発生を防止します。

また、一定の要件を満たす場合には、弁護士法人へ支払督促等の法的措置も含めた回収業務を委託し、未収金の回収に取り組みます。

### (5) 経費の抑制に向けた取組

患者負担の軽減とともに費用の削減につながる「後発医薬品」の採用について、DPC分析の検証に基づき、計画的な採用に取り組みます。

委託料、保守料などについては、実績を踏まえて契約内容を毎年点検し、経費削減に努めるとともに、医療器械の調達においては、できる限り複数社による競争を確保します。また、各種医療器械、医薬品、医療材料等の共同購入・交渉について、徳島大学病院や徳島県鳴門病院との連携を充実し、購入費用の低減に向けて、様々な手法を検討します。

#### **(6) 施設・設備の適正管理と整備費の抑制**

平成31年3月に策定した「徳島県病院施設長寿命化計画」等に基づき、不具合等を未然に防止する「予防保全」型管理により、外壁補修、屋上防水、設備機器の更新等を、機能向上を図りながら計画的に実施します。

施設・設備の整備に当たっては、整備費や整備後の維持管理費を抑制するため、整備内容や発注方法等について、先進事例を参考にしながら十分な検討を行います。

#### **(7) 一般会計からの適正な繰入措置**

県立病院は、地域における中核的病院として、救急医療、周産期・小児医療、災害医療、へき地医療等の政策医療や不採算医療に取り組んでおり、今後も地域の医療課題へ対応するために、より一層の取組強化が求められます。

病院事業では、これらの政策医療や不採算医療などに要する経費については、一般会計から適正な繰入措置を行った上で、地方公営企業の病院として、効率的な経営に努めます。

### **5 医師・看護師等の確保策の強化、働き方改革の推進**

#### **(1) 医師・看護師等の確保策の強化**

「徳島県医師確保計画」を踏まえつつ、「徳島県地域医療支援センター」等との緊密な連携により「地域特別枠医師」等を確保するとともに、徳島大学の「寄附講座」の設置により、常勤医師が不足する診療科等における医療提供体制の確保・充実を促進します。

また、国が推進する看護師等の処遇改善を実施するとともに、引き続き、医療従事者の勤務実態や人員確保の必要性等に応じ、適正な給与水準を確保します。

さらに、県民への医療サービスの向上につながる医師、看護師等の業務負担軽減を図るため、引き続き、医師事務作業補助者、看護助手等の効果的な配置に努めます。

#### **(2) 医師・看護師等の研修・勤務環境の改善・充実**

高度な知識や技術・経験を持つ指導医や専門医を育成するとともに、関係医療機関との連携の下、県立3病院の診療機能の特性を活かした魅力ある教育環境を整備し、若手医師のキャリア形成を支援することにより、臨床研修医、自治医科大学卒業医師及び地域特別枠医師の県立病院への定着に繋がります。

また、令和4年度における「女性医師支援に係る検討会」での検討結果を踏まえた、男女を問わず全ての医師が働きやすい環境づくりや海部病院の医師公舎等の整備など、ソフト・ハードの両面から勤務環境の改善・充実を図ります。

#### **(3) 医師・看護師等の働き方改革の推進**

令和6年4月から適用される医師の時間外労働規制に対応するため、医師の確保による診療体制の充実を図るとともに、宿日直許可取得等による労働時間の短縮に取り組みます。

また、特定看護師の育成や病棟薬剤師の配置等による「タスクシフティング・タスクシェアリング」を推進することにより、医師の負担軽減を図ります。

看護師等の夜間勤務体制の見直し（勤務時間帯の変更、交代制勤務への移行など）を推進することにより、夜間における勤務の負担軽減を図ります。

さらには、中央病院における院内保育所の運営により、職員が出産や育児といった「多様なライフステージ」に対応して業務を続けていくことができる職場環境づくりに努めます。

# IV 取組目標一覧

対応箇所		項目	令和元年度実績	令和3年度実績	令和7年度目標	令和9年度目標	
III-1	(1) ER棟等の整備による感染症への対応力向上	ER棟の竣工	-	着工	令和4年末竣工	-	
III-2	(2) 各病院の機能充実	リハビリテーション単位数(総数) 【単位/年】	中央	43,784	55,352	56,000	56,000
			三好	22,177	29,966	24,000	24,000
			海部	27,930	26,226	30,000	30,000
		訪問看護件数 【件/年】	中央	-	-	-	-
			三好	-	0	100	100
			海部	655	904	800	800
III-2	(3) 医療の質向上と安全・安心な医療提供	DMAT(災害派遣医療チーム)数 【チーム】	9	9	12	12	
		薬剤管理指導件数 【件】	中央	16,633	15,084	17,000	17,000
			三好	2,644	2,844	3,500	3,500
			海部	1,045	1,183	1,800	1,800
III-2	(5) 専門人材の育成  (III-5(3) 医師等の働き方改革への対応)	高度医療研修医師派遣者数 【名】	24	24	30	30	
		専門・認定看護師数 【名】	37	40	40	40	
		看護学生実習指導者数 【名】	27	38	34	34	
		認定薬剤師数 【名】	9	9	15	15	
		看護師「特定行為研修」修了者数 【名】	1	4	10	10	
III-4	(4) 収益拡大に向けた取組み	紹介率 【%】	中央	95.6	90.3	93	93
			三好	49.9	63.9	55	55
			海部	18.7	19.5	30	30
		逆紹介率 【%】	中央	203.2	211.1	200	200
			三好	83.2	99.1	100	100
			海部	39.1	48.8	50	50
		平均在院日数 (精神病床, 緩和ケア病床及び 地域包括ケア病床除く) 【日】	中央	9.8	10.5	9.6	9.6
			三好	13.7	14.1	13.5	13.5
			海部	11.3	12.0	12.0	12.0
		1日平均新規入院患者数 (精神病床, 緩和ケア病床及び 地域包括ケア病床除く) 【日】	中央	32.1	24.5	33.0	33.0
			三好	9.2	8	10.5	10.5
			海部	3.1	4.2	4.0	4.0
	病床利用率(一般) 【%】	中央	84.2	69.3	86.0	86.0	
		三好	68.3	55.2	70.0	70.0	
		海部	70.4	43.3	72.0	72.0	
III-4	(5) 経費の抑制に向けた取組み	医療材料の共同購入品目数 【品目】	227	268	300	300	
		後発医薬品採用数 【品目】	中央	329	339	370	370
			三好	276	289	330	330
			海部	229	241	250	250
		後発医薬品割合 【%】	中央	88.7	90.2	90.0	90.0
			三好	89.7	92	90.0	90.0
海部	93.9		95.8	90.0	90.0		
III-5	(1) 医師・看護師等の確保策の強化	医師事務作業補助者数 【名】	52	52	55	55	
		(2) 医師等の研修・勤務環境の充実・改善	臨床研修指導医数 【名】	99	102	120	120
			初期臨床研修・専攻医数 【名】	52	56	60	60

**【検討中】**  
R7目標値修正・新規目標・R9目標値

# V 収支計画

## 1 収支計画

病院事業では、平成17年度の地方公営企業法の全部適用以降、県立3病院と本局を合わせて一体的な経営に取り組み、事業全体の経営方針の企画や、人事・予算・物品購入等の運営管理を行ってまいりましたが、今後厳しい経営環境が予想される中で、より一層、一体的経営を強化し、令和\_\_年度の病院事業全体の経常収支をもって黒字化を目指します。

### 〈病院事業全体収支計画〉

【検討中】

(単位:百万円)

区分	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績見込	R5 計画	R6 計画	R7 計画	R8 計画	R9 計画	R10 計画
総収益	24,358	27,090	27,714	27,155	25,056	25,543	25,702	25,795	25,845	25,849
医療収益	20,775	20,031	19,727	21,090	21,590	21,957	22,058	22,159	22,261	22,364
医療外収益	3,583	3,977	3,970	4,057	3,466	3,586	3,645	3,635	3,583	3,485
特別利益	0	3,083	4,016	2,008	0	0	0	0	0	0
(うち繰入金)	(3,303)	(3,585)	(3,550)	(3,603)	(3,478)	(3,472)	(3,465)	(3,457)	(3,449)	(3,441)
総費用	24,622	25,987	25,920	26,016	25,635	25,998	26,212	26,269	26,165	26,009
医療費用	23,116	23,021	23,726	23,930	24,112	24,491	24,674	24,751	24,702	24,576
(うち給与費)	(12,259)	(12,220)	(12,774)	(12,775)	(12,991)	(13,017)	(13,043)	(13,107)	(13,134)	(13,160)
(うち減価償却費)	(2,073)	(1,968)	(1,951)	(2,031)	(2,010)	(2,261)	(2,391)	(2,377)	(2,275)	(2,096)
医療外費用	1,506	2,206	2,188	2,086	1,523	1,507	1,539	1,518	1,462	1,433
特別損失	0	760	7	0	0	0	0	0	0	0
医療収支	▲ 2,341	▲ 2,989	▲ 3,998	▲ 2,840	▲ 2,522	▲ 2,535	▲ 2,616	▲ 2,592	▲ 2,441	▲ 2,212
経常収支	▲ 264	▲ 1,219	▲ 2,216	▲ 869	▲ 579	▲ 455	▲ 510	▲ 474	▲ 320	▲ 159
純損益	▲ 264	1,104	1,793	1,139	▲ 579	▲ 455	▲ 510	▲ 474	▲ 320	▲ 159
純損益(退職給付引当金繰入を除く)	▲ 41	▲ 996	▲ 1,993	▲ 646	▲ 356	▲ 232	▲ 287	▲ 251	▲ 97	64
内部留保資金	1,513	2,899	4,929	6,121	577	452	91	▲ 265	▲ 342	▲ 342
医療収支比率	89.9%	87.0%	83.1%	88.1%	89.5%	89.7%	89.4%	89.5%	90.1%	91.0%
経常収支比率	98.9%	95.2%	91.4%	96.7%	97.7%	98.2%	98.1%	98.2%	98.8%	99.4%
経常収支比率(退職給付引当金繰入を除く)	99.8%	96.0%	92.2%	97.5%	98.6%	99.1%	98.9%	99.0%	99.6%	100.2%

### 〈中央病院収支計画〉

【検討中】

(単位:百万円)

区分	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績見込	R5 計画	R6 計画	R7 計画	R8 計画	R9 計画	R10 計画
総収益	17,027	17,335	17,580	18,236	17,736	18,190	18,302	18,390	18,419	18,402
医療収益	14,895	14,380	13,705	15,042	15,584	15,924	15,999	16,073	16,148	16,224
医療外収益	2,132	2,265	2,372	2,442	2,152	2,266	2,303	2,317	2,271	2,178
特別利益	0	689	1,503	752	0	0	0	0	0	0
(うち繰入金)	(1,963)	(2,081)	(2,079)	(2,122)	(2,092)	(2,087)	(2,081)	(2,075)	(2,069)	(2,063)
総費用	16,305	16,795	16,975	17,113	17,503	17,850	17,991	18,086	17,989	17,833
医療費用	15,246	15,149	15,449	15,645	16,375	16,725	16,848	16,960	16,914	16,785
(うち給与費)	(7,984)	(7,874)	(8,067)	(8,067)	(8,511)	(8,528)	(8,545)	(8,600)	(8,618)	(8,635)
(うち減価償却費)	(997)	(1,022)	(1,119)	(1,189)	(1,219)	(1,455)	(1,541)	(1,577)	(1,492)	(1,325)
医療外費用	1,059	1,646	1,526	1,469	1,128	1,125	1,142	1,126	1,075	1,048
特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療収支	▲ 351	▲ 769	▲ 1,744	▲ 603	▲ 791	▲ 800	▲ 850	▲ 887	▲ 766	▲ 562
経常収支	722	▲ 150	▲ 898	371	233	341	311	304	431	569
純損益	722	540	605	1,123	233	341	311	304	431	569
医療収支比率	97.7%	94.9%	88.7%	96.1%	95.2%	95.2%	95.0%	94.8%	95.5%	96.7%
経常収支比率	94.0%	90.1%	83.9%	91.4%	90.7%	90.8%	90.6%	90.4%	91.1%	92.3%

〈三好病院収支計画〉

【検討中】

(単位:百万円)

区分		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績見込	R5 計画	R6 計画	R7 計画	R8 計画	R9 計画	R10 計画
三好病院	総収益	4,925	5,734	6,426	5,785	4,906	4,944	4,990	4,993	5,006	5,019
	医業収益	4,017	4,028	4,153	4,159	4,110	4,128	4,147	4,165	4,184	4,202
	医業外収益	908	1,077	964	971	796	815	844	828	822	817
	特別利益	0	630	1,310	655	0	0	0	0	0	0
	(うち繰入金)	(861)	(985)	(940)	(942)	(881)	(881)	(880)	(879)	(878)	(877)
	総費用	5,500	5,573	5,872	5,852	5,357	5,400	5,482	5,453	5,443	5,442
	医業費用	5,210	5,248	5,429	5,434	5,105	5,155	5,222	5,197	5,189	5,189
	(うち給与費)	(2,802)	(2,846)	(3,127)	(3,127)	(2,958)	(2,963)	(2,969)	(2,975)	(2,981)	(2,987)
	(うち減価償却費)	(694)	(565)	(443)	(454)	(430)	(471)	(528)	(493)	(475)	(465)
	医業外費用	289	324	443	417	252	245	259	256	254	253
	特別損失	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医業収支	▲ 1,194	▲ 1,221	▲ 1,276	▲ 1,275	▲ 995	▲ 1,027	▲ 1,076	▲ 1,032	▲ 1,005	▲ 987
	経常収支	▲ 575	▲ 469	▲ 756	▲ 722	▲ 452	▲ 456	▲ 491	▲ 460	▲ 438	▲ 423
	純損益	▲ 575	162	554	▲ 67	▲ 452	▲ 456	▲ 491	▲ 460	▲ 438	▲ 423
	医業収支比率	77.1%	76.7%	76.5%	76.5%	80.5%	80.1%	79.4%	80.1%	80.6%	81.0%
経常収支比率	70.1%	69.7%	69.7%	69.8%	73.3%	72.9%	72.4%	73.1%	73.5%	73.9%	

〈海部病院収支計画〉

【検討中】

(単位:百万円)

区分		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績見込	R5 計画	R6 計画	R7 計画	R8 計画	R9 計画	R10 計画
海部病院	総収益	2,392	4,002	3,675	3,105	2,401	2,396	2,397	2,398	2,406	2,415
	医業収益	1,863	1,624	1,870	1,889	1,896	1,904	1,912	1,921	1,929	1,938
	医業外収益	529	616	602	614	505	492	485	477	477	477
	特別利益	0	1,763	1,203	602	0	0	0	0	0	0
	(うち繰入金)	(470)	(501)	(503)	(512)	(495)	(495)	(494)	(493)	(492)	(492)
	総費用	2,571	3,340	2,793	2,772	2,533	2,506	2,497	2,486	2,489	2,489
	医業費用	2,414	2,349	2,577	2,580	2,395	2,374	2,365	2,355	2,360	2,361
	(うち給与費)	(1,241)	(1,245)	(1,344)	(1,345)	(1,306)	(1,308)	(1,311)	(1,314)	(1,316)	(1,319)
	(うち減価償却費)	(382)	(380)	(388)	(387)	(359)	(334)	(320)	(306)	(307)	(304)
	医業外費用	157	230	209	192	137	132	132	131	129	128
	特別損失	0	760	7	0	0	0	0	0	0	0
	医業収支	▲ 552	▲ 726	▲ 707	▲ 691	▲ 499	▲ 470	▲ 453	▲ 434	▲ 431	▲ 424
	経常収支	▲ 179	▲ 340	▲ 315	▲ 269	▲ 132	▲ 110	▲ 101	▲ 88	▲ 83	▲ 74
	純損益	▲ 179	662	881	333	▲ 132	▲ 110	▲ 101	▲ 88	▲ 83	▲ 74
	医業収支比率	77.1%	69.1%	72.6%	73.2%	79.1%	80.2%	80.9%	81.6%	81.8%	82.1%
経常収支比率	70.2%	60.9%	65.1%	65.7%	71.1%	72.0%	72.7%	73.3%	73.5%	73.9%	

＜メモ＞ ※製本時削除

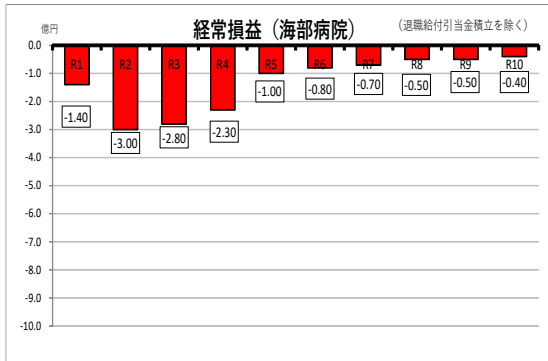
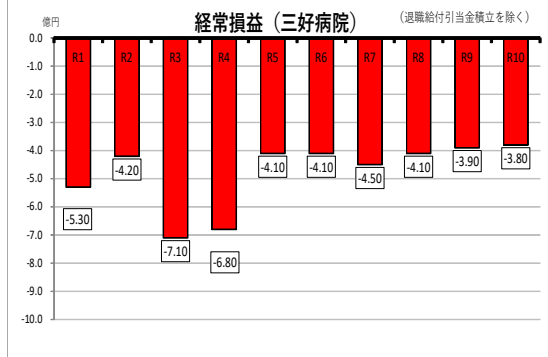
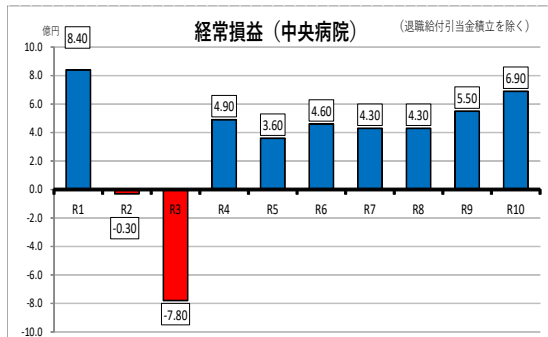
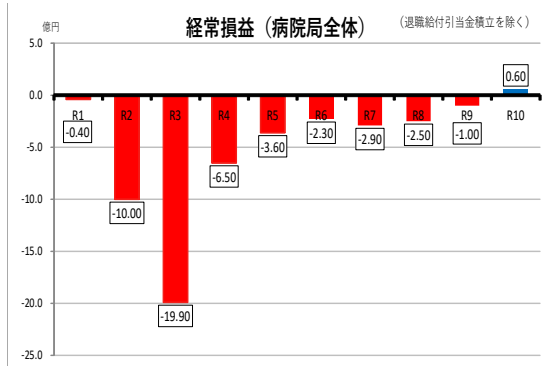
OR5以降の計画数値については、「徳島県病院事業経営計画（第2期）」の収支見込みを採用  
(主な算定要件)

- ・診療収益については、毎年0.5%増加。
- ・給与費は、毎年0.2%の増加見込で算出。

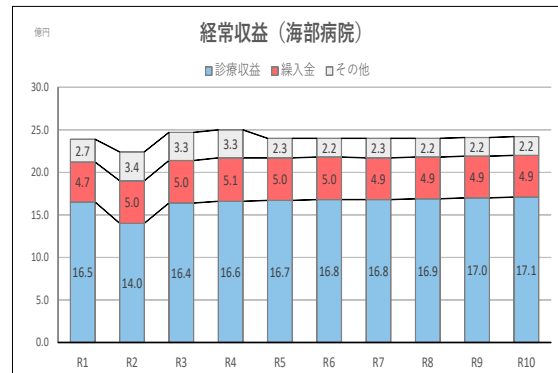
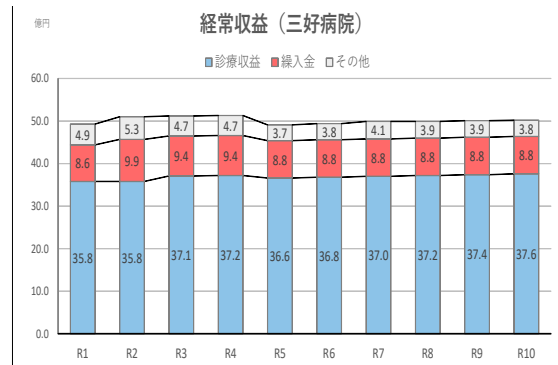
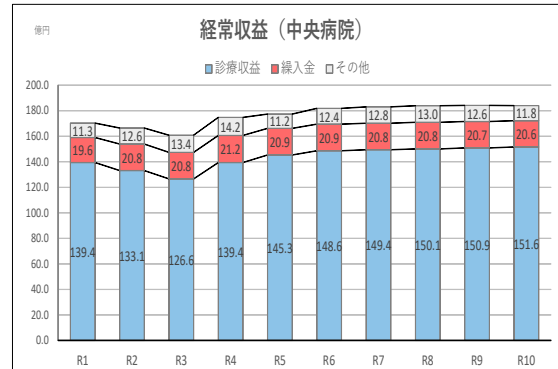
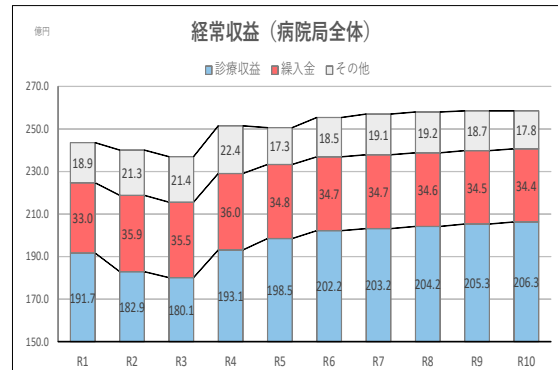
## 2 主な経営指標

【検討中】

### 〈経常損益〉



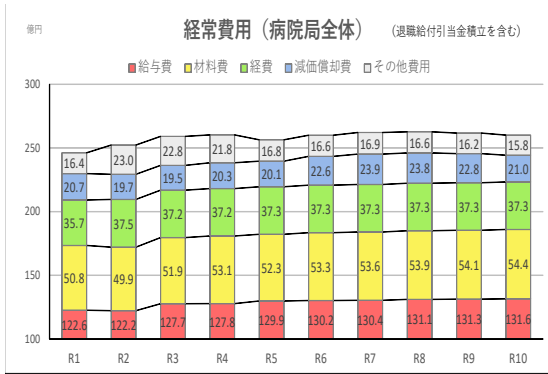
### 〈経常収益〉



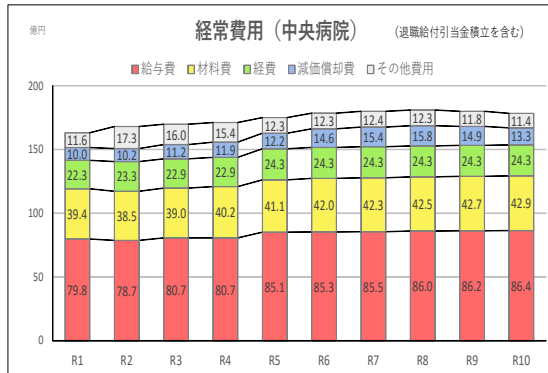
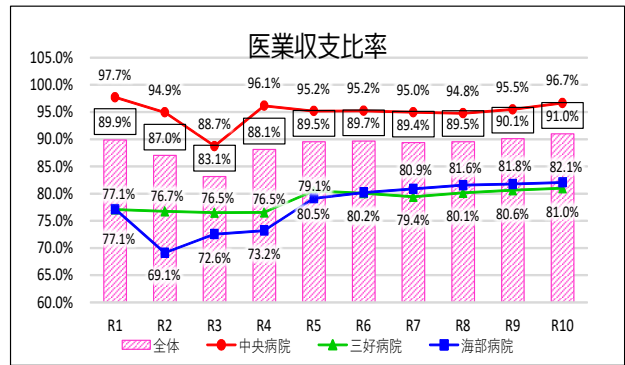


【検討中】

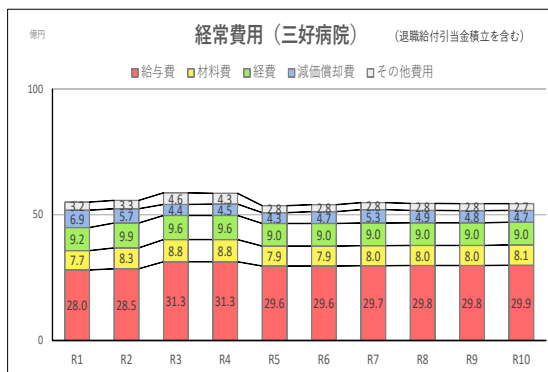
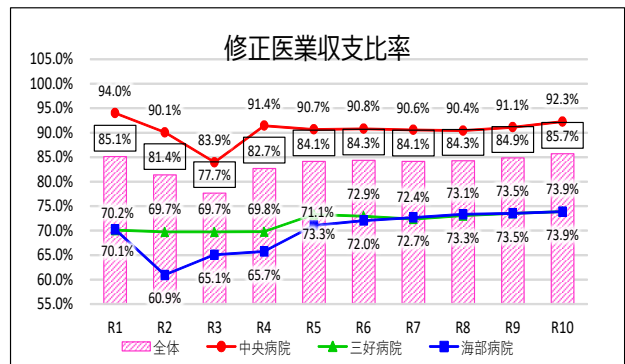
〈経常費用〉



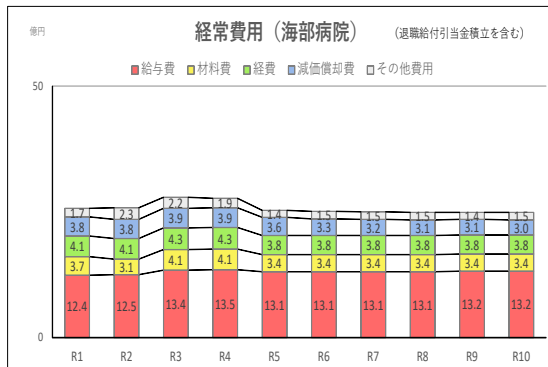
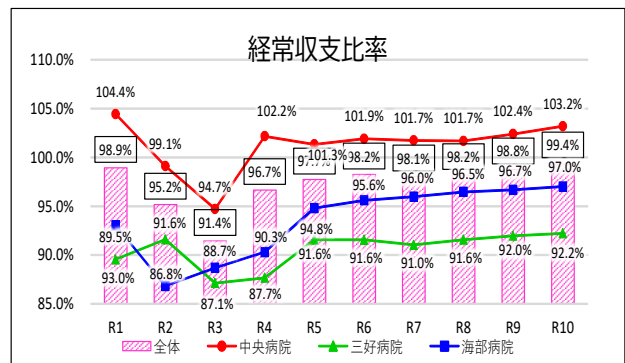
〈医業収支比率〉



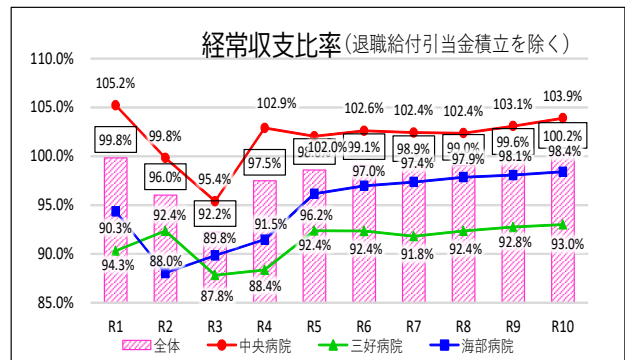
〈修正医業収支比率〉



〈経常収支比率〉



〈経常収支比率 (退職給付引当金除く)〉



## VI 計画の推進

### 1 進行管理

---

病院局全体で、毎年度、達成状況の確認と評価、課題の抽出、対策の検討を行い、PDCAサイクルによる的確な進行管理に努めます。

### 2 点検・評価・公表

---

本計画を着実に推進するため、毎年度、取組状況について点検を行います。また、評価の客観性を担保するため、学識経験者や医療関係者からなる「県立病院を良くする会」の意見を踏まえ、実施状況の評価を行います。なお、評価結果については、県民が理解しやすいよう、積極的な情報開示に努め、病院局ホームページにおいて公表します。

### 3 計画の見直し

---

点検・評価の結果などにに基づき、施策等を見直しを実施するとともに、令和5年度に策定予定の「第8次徳島県保健医療計画」や地域医療構想調整会議における協議結果や国の動向、社会・経済情勢の様々な事情の変化等、必要に応じて計画内容の適切な見直しを行います。